

1

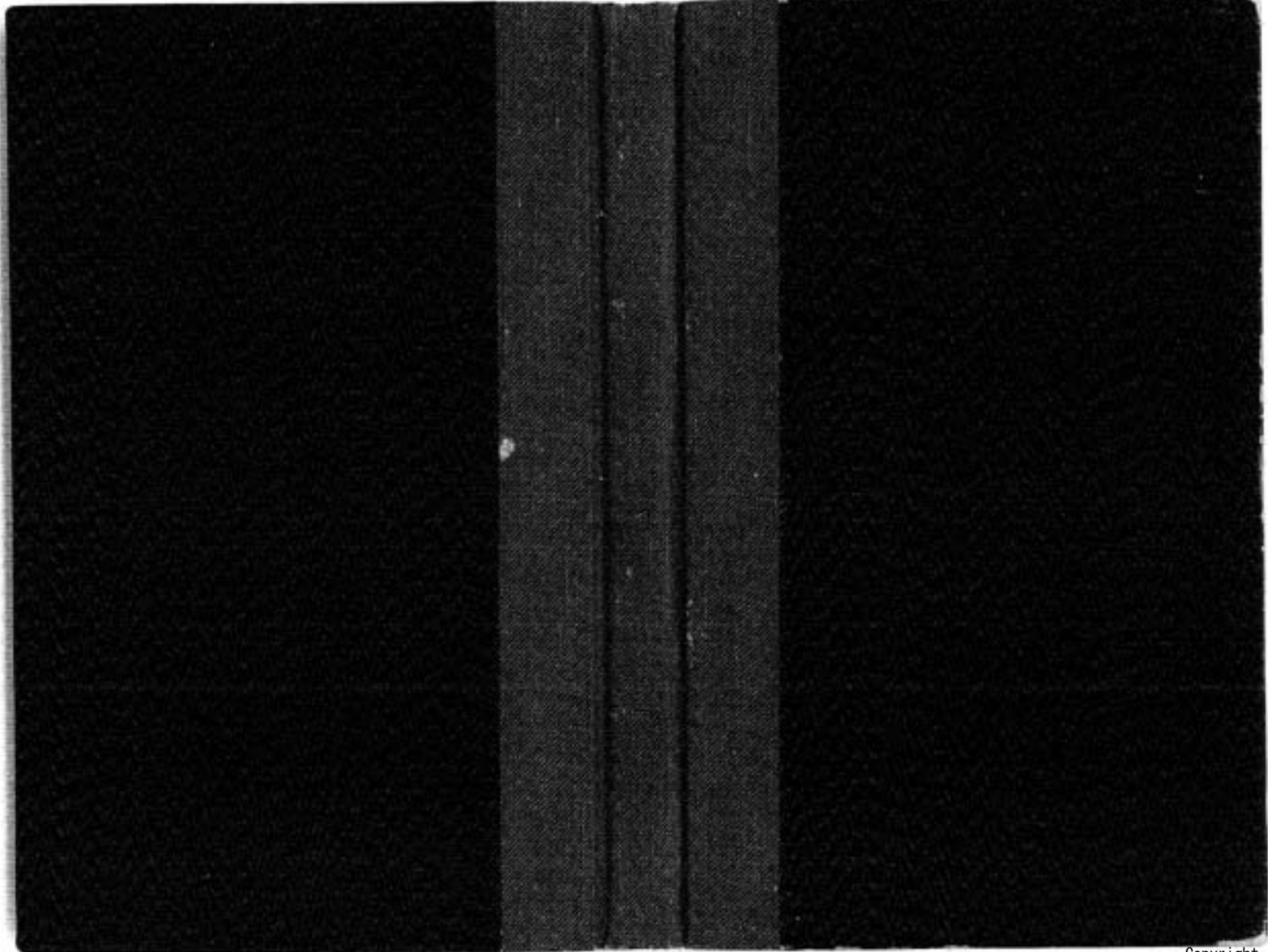
明治22年

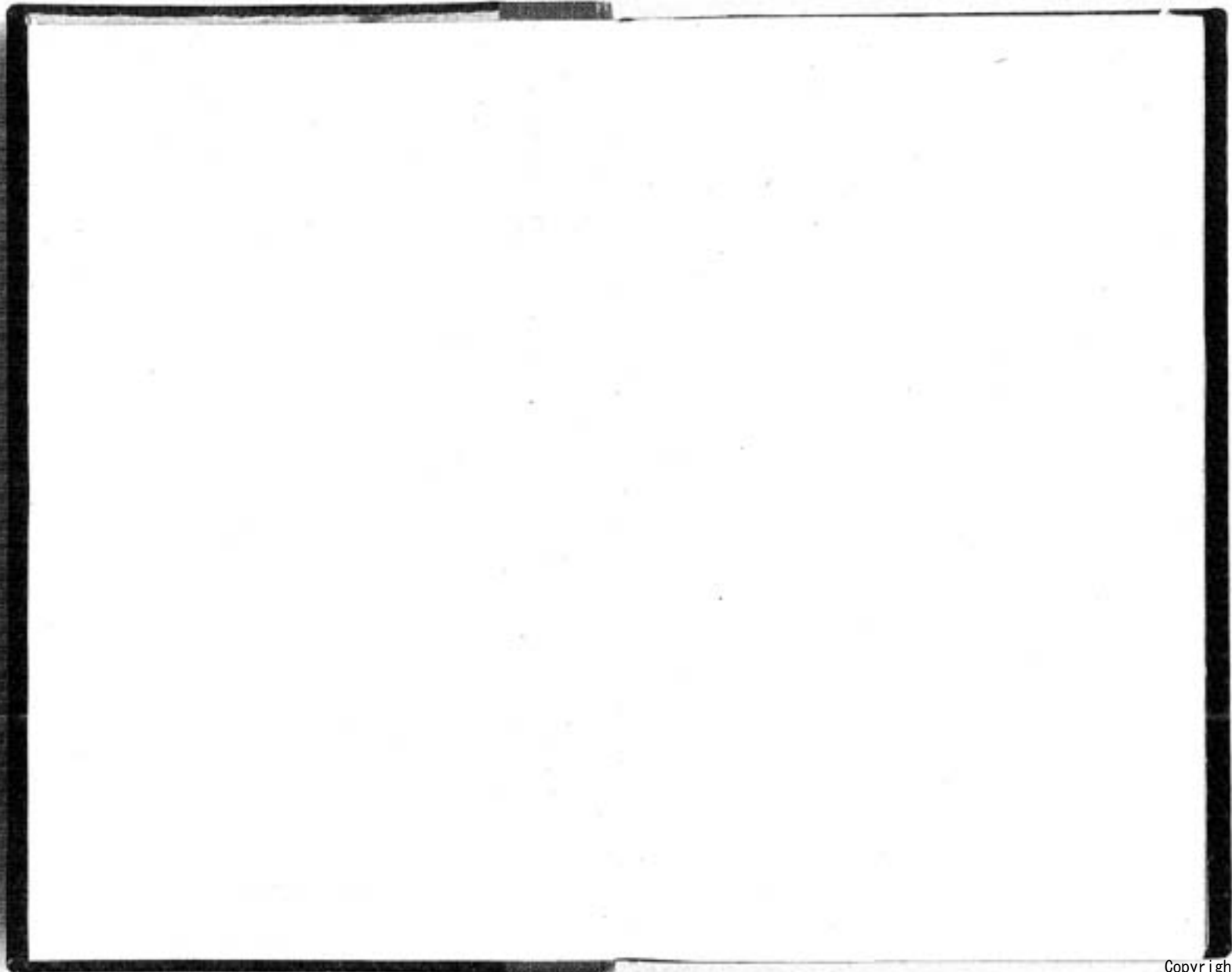
①

M. 22. 9. 17
~ 10. 31

付: 10月中の黄
訪向・来訪
友人の等級一覧

うきよのたひ





浮世のたぐい

1



明治廿二年十月

例言

- 一 此ノ日記ハ余カ毎日言行見聞ヲアソノマヘテ記セルモノニテサレモ虚飾ナレ
- 二 文章ハズツケ書キテハ句ヲナサヌ處多シ併シソコニ味ヒアソ
- 三 此ノ日記ハ堅ク他見ヲ禁ス父母兄弟ヲトモ見レテ許サヌ
- 四

日	土	金	木	水	火	月
8-9					強材	月自
9-10				強	材	自
10-11			強	遠	地	自
11-12	遠	遠	地	力	遠	自
1-2			遠	測		構
2-3				構		
3-4						
25-4			仙		仙	
1-25			教		教	
6-7	教	材	仙	強	強	仙
7-8	教	材	仙	強	強	仙
8-9	教					
9-10	教					
1-2	法					
2-3	法					
3-4	法					構
4-5	法	史	遠		構	構
6-7	法	遠	遠	教	力	教
7-8	法	史	史	教	力	教
8-9	法	史	史	教	史	教
9-10	法	史	史	教	史	教
10-11	法	史	史	教	史	教

満点 (寄附 100
行状 50)

九月中

	日	朝起	就寝	停宿点	行状	平均点
X	17	7°	11°?	32	15	23.5
	18	6°10'	11°40'	57	28	42.5
	19	6°30'	9°30'	25	23	24.0
	20	6°30'	11°30'	25	28	26.5
	21	8°30'	9°	20	40	30.
日	22	8°	11°30'	50	40	45.
	23	8°	10°30'	55	25	40.
	24	7°30'	12°	55	21	38.
	25	7°	10°20'	28	26	37.
X	26	7°	10°30'	20	15	17.5
	27	7°	11°	40	26	33.
	28	7°	1°40'	20	16	18.
日	29	8°	11°	60	46	53.
	30	7°	1	40	34	37.
				十	月	中
	1					
	2					
	3					
	4					
X	5					
日	6					
	7					

九月十七日(火)

午前七時三十分起キ朝飯^連登校九時三十分
引所勤工場へ趣キ飯^連計全員^連萬^{コイ}愛^全
庵内五時十一時登校十二時帰宅今泉造ハ其
登校宜装式^連宣^式宣^式宣^式無用^ノモノ^ヲ只^ニ歐
凡^クラ^モ何^レ益^{アリ}ト^ハト^ナヤ^シ人^多カ^キ然^レモ
ハ indifferent ^トワ

式終リテ^リガ^レ Gallineros travels ^ヲ読^ミテ^ハ繁^シ
夕刻風呂^ニ行^キ田中苗^ト逢^フ田中^ハツ^テ從^テ来^ル
其^レ茶^ヲア^リテ^ハ從^テテ^ハ余^ガ見^ル中^ニ洗^ヒ茶^ト
小僧^ト第^ハハ^カ洗^ヒ茶^ト見^ル管^スル^モナ^リ

夜^ニ入^リテ^ハク^レ趣^キ近^ク研究^ス終^リ又^テ其^レ
散步^ニ終^リ一^ト料理^店入^リ酒^ヲ飲^ミ肴^ヲ食^ヒ
繁^シ樂^極ヲ^シル^ル本^文讀^ム今^日ハ^ホス^ス
ト^テ再^テ其^レ量^ノに^對シ^テ酒^ヲ飲^ム大^ニ飲^ム
テ^ハ昨日^ノ買^ヒタル^新下^駄飲^ム茶^ヲ茶^ヲ飲^ム
帰宅^後直^ニ寢^ル就^クツ^テ何時^カ決^ス
コ^ノ判^決三^十二^点ト^ハ大^落チ^ナ

九月十八日(水)

今朝の宿酔の味は頭、工合が妙なり六時十分
前ニ起キテ大ニ水ヲ飲ミ又沸騰散ヲ服シテ元モ宿
酔ノ様子ニ沸騰散ヲ三盃引テ登校セリ余ハ朝飯
後 perspective projectionヲ研究シ又十斗ノ譯筆書
見テ中ニ幾多ノ標本ニ実ニ然ラズト知ルヘシ
時三十分登校スコト日毎ノ井口在屋先生ノ力学ノ講
義ノ間々ノ説明ハ微妙ノ積ムトニ用テ活ケル
テ意深ニ余ニ感心ナリ

午後三時半帰宅ノ學課ニシテバク四時半ニ及ニ洋服高田
村来リテ冬服ノ注シノ令渡ニ十三日ヲ振テ上
等(1)綾羅紗ヲ注シセリ人或ハ余ヲ難ク費沢トツテ
ハモ知リス併ニ洋服ダラソデナイ(袖ガ)ト思ヘリ
ナシ洒落履ヲハナイ洋服評判ハ始ト一時間ヲ費シ夕
刻ニ進メタリ日更食ヲ終テ又々學課ニテカワフ
スハ巾中山丸房来訪セテ四方山ノ了セテ中々面白ク
ハ時ニ及中山ヲ知リ依テ又々學課ニテカワフ
六ノ時キ更ニ向テ角草ニ得テ愉快ナリ

九時ニ及買物兼散步ニ行キリヨ金ボールノ
立リ巻ニツクツ見ハ蕎麥ヲチラカセテサトト
サトト主張セテ因テ同意ニ多クノ満ト蕎麥ト
腹ヲ肥テシ知ラレトスルニ一テ曇リテ日暮
咫尺ヲ辨セトトキ東方ニ電光ニラソキテ道ヲ照

スヲ便ニタドリ外カテ窓ニリコロシ

米沢ノ名ニ高橋平左エ門ノ燈句ニ

闇ノ夜ニ追ハ照ラス電光

タタキ音ハてきとる梅林

・クク捕エへ見ルハ去リたき

三句アリ命久シクシ儂チヲ知ルテ研ハザリカ

今日始テ第一句ノ光モ儂ニルヲ知ルリ即チ神

一ハ崇高 (edle, Erhaben) ノ最上ナルニシテ

和ニハ儂ニ儂美 (Schönheit) ニ富ソク而シテ

才ニハ可笑 (lächelnd) ナリ余ハ以テ之ヲ悦シハ

カ一他ノ一ニ儂ニテ遠シス

和安後直チニ後ニ就ク先ニ好字ナリテ研

ハセリカサニニ結果ヲ見ルヲ能ハザリキ) 午後十一

時四十分ナリコト判決トナシテ

九月十九日 (木)

大晦三十分起キ朝食ハ新開の酒に敬奉する所
究ル内早ハ八時に近ツキ即ち燈籠は内由於幸ノ
月謝のレブクニ掃ビ頭痛の敬奉ノ講義ニ因テ終リ引
引テ終リテ四時五十分 駿河台ハ平田家父の居る所
宅ニ家ヲ来合セ居リぬ父ハ余ガ兄ガロキヒテ事ヲ何
ヒ以テ禁酒ノ命令ヲ下セリ余ガハ只唯々シテ命ヲ奉シ
タリ實ハ内心ナシク不同意ナリト虽抗極シテ見テ所ガ始
マラス誤ラテ又禁酒ノ命令ヲ蒙ルモ一朝一夕ノ誤シテ
ガレバ已ラ得スレテ命ヲ奉シタハト矢ノルベシ

黄昏ニ及ビ余ハオト共ニ神田猿蓑ノ名幸トシテ牛肉
店ニ行キテ酒トビールヲ食リ何カレ食慾ヲ逞クセリ
嗚呼余ガ禁酒ノ命ヲ蒙リテ今更ニ耳聾ヲ去ラス而
モ已ニ酒ヲ食フ通例ハ余ガ故郷ニ無キ故ニ往
トスベシハ余ハ實ニテサレテ考ヘテ世人ノ冷評ハ馬
耳東風ト固キ流セバーモ余ヲ刺激スルニ足ラザル
ナリ(サテモ大胆ニ名乗リカケタリ)

コノ日ノ行方ヨリ中々面白キ節ハテケヨツテラケヨ
ト云ヒ尽シ難シ先ツ始めハ余ガ兄ガ三人ノ人物
論ヲ結早ハ兄ハ人ノ歡心ヲ得ルニ巧ナリ
余ハ學術ヲ長セテカハ尤モ世オト長ク
ト判決ナリシ余ヲ平ズル人毎ニ同シカラス余ハ
人ヲ見テ余ノ言行ヲ變ズレバナリ余ガハ實ニ次ノ

如何評受タリ

美術家, 画伯, 多才家, 多能家, 多藝家,
器用家, 文章家, 著述家, 博學家, 好酒家,
大酒家, 好女家 (女=好カハト云フナリ), 有情家,
多情家, 冷淡家, 因循家, 兩刀家, 等.

ソ何レカ余ノ眞性ヲ穿テ得タルハ余モ自ラ知ル能ハス
其他亦ト種々有益ナルヲ語ラナシタリ蓋シ亦ハ余ガ
大ニ裨益カレテ屢アリ

ハ時ニ遊キ家ニ歸リタルニ酒氣ナキ存ニ勉強スル念ナシ
ト又學思想起リテナリ復義大丈本ナドヲ習評
シ心中ニ樂シク親中 董村先生ノ筆ノ輕妙ナルニ多ク
感歎セリ

イトナク眠氣催ル思ハ懐ニ託タルハ多分九時
半頃ナリナラレコノ日判決ニ十五点トハ悲シ
リタリ

九月二十日 (金)

午前六時三十分起キ食事セシムル洋服向來ヲ服
下維合セタリ七時半登校時五ノ間宜哲武帳
簿記名セリコト前後死名人見ル先ノ學士學生等
年數ナキ甚クキモアハノ學ヲ修メ工料三年生白井
賴吉・明治五年生大學院學生岡野孫二郎ハ
明治二年理學士神保小虎・慶應三年生イノコロ
比較スルニ余等ハ只舊才學成ハ塵キヲ耻セザルヲ得
ズ此レ大悪晩成、學成ル速ナリ必シモ費スルニ
多シ運キモ亦ノ發心足ラス余ハ余カ方ナリ余何ヲ
空ニ得テ羨ミテ自ラ卑屈セナ (ヒヤヒヤ)。

コ日正午ニテ授業ヲキリ上ケ(四時ヲテトコロ)學友眞水
英史、山下啓次郎、河合武次三人ト共ニ上野ニ赴キ
以テ國同刻展覽會ヲ見ル余ハ刻刻ノ精カガザレバ
少ク評下スル能ハザレモ先ノ般ノ精巧ト云フ可ナリ又
實ニ藝術眞想ヲ備ヘタルハ僅カニニマシキヤレバ
何ナリ刻刻ノ大部ハ古件ノ刻刻ノ模倣シタルモノハ其
形狀姿勢ニ至テハ實ニ精巧極メト云フ線條ノ間ニ
所謂高雅ナル貞節ニ至テキテ免レトス
彫刻物ノ過半ハ裸體ノ美人裸體ノ女神ニシテ日本人
ノ目ヨリ見ハ何レモ猥褻ノ甚キモノナリ殊ニカ年少カ
相抱テ接吻スルノ像ハ尤モ疾ノ人ニシテ恍惚ヲシ
ルニ足ル然レテ泰西ノ風習ニテカハルハサレモ貞節

裸体の露スニ非サハ眞ノ義ヲアラスア能ハスト後トゾ裸
体ノ義ヲ義ハ裸体ニ限ルナド、矢口モセヌクセニ大言スルモ
アルニ実ハ何ガ眞ノ義ナラシヤ中々カレトナシ日本ノ後羅
綿繡カガタテ義ナリト西洋ノ素裸ニテ義ナリスバ彼ノ
彼ヲ我ハ我ヲ強ク裸体ヲ賛成スル勿レ不賛成スル勿レ
次ノ家畜共世帯ノ受タリ多ク家鶏ノ産卵ニテ區分佳
種モアリタルニ價ノ非常ニ貴キ卵ヲ先ツ一羽ニテ一円
一割ニテ四十円余、モノサヘアリ斯ク高價ニテモ實際ニ
利益アルモノニキ一羽ニテハ繁殖セムル能ハザレバ只ク
眼ヲ喜バスクニガレバキニ數十円高價ナリト見ハ矢
張リ玩弄鳥ト同資格タルベク實際ニ目的トスル同意注
意ニハナク及スルカ思ハ併シコレ余ノ農事ノ暗キ故ナリカ
トサレ後ハ氣アルハ断然ト四ハ云ヒ難シ

月窟四ノテ池ノ端ノルロ屋ニ入り面白キヲ言フ者ナ
ガレニルコトノ賞玩セリ余ハ元來コレトハ中要キモノナ
レ元來意地ノキタキ男ナレハ黙止スルニ忍ヒスレテ
手ヲ下セリソリヨリ四人追ヒクニ少能佳シ余ハ龍岡町
オ子岡村龍彦ヲラ方ヒリ龍彦ハ喜ヒテ亭主ゾマ
ソマシク囲碁ヲ始メタリ(但シ五モリナラベ)龍彦
ハ余ヲ豊田屋ニ誘ヒテ酒肉ヲ馳走セリ家ノリヨリ
テ後兄ト共ニ夜席若竹亭ヘ行キ越ハ義大丈ヲ
座トシ愉快ナリ越ハ義大丈ハ堅固ニテカアリ
中々上手ト云ヒテ可ナリ 月窟酒一盃ヲ酌マシ家

家カ勸メタルニ余ハ返リテ腹痛スル於残念ナク
辞謝シテ家ニ帰ル十時三十分ナリ何ゾ一草セ
シハ思ヒテカテ腹痛ノ為メ心進マスコノ腹痛ノ
源固ハ多分此ノ酒トノ食ヒ合セタルニコレモ
ナモキ我カノ故ト往生觀念ハセシモハ腹痛
ハ白ク烈ク蒙リ用ヲタケレモ兄ハ不在ナリ終ニ
十時三十分痛ニ享セキ安眠シテ痛ヲ忘レテ企
テリ

九月二十一日(土)

昨夜ヨリ腹痛次第に激しく午前一時ヨリ殊に堪へ難ク身ヲモクキ垂ラセリ七時八時に其セリ五臓六腑ノ宿ガヘスルハ延ル筋肉リトクニ強キ裂ルカト思ハシ思ハズモ喚キ叫ビタリ余ハ痛ヒレズレモ痛ハ遠慮ナク我ヲユリ起ス午前三時頃ニ至テ突然嘔吐ニ催ル尾籠ナク昨日ワソコシタル牛肉、葱、飯、番ノ物、汁ウケ、線蕪蕪(コト豊田屋ノ限テ肉ノ付属品トス)一ツモ強ク吐キツクニ來サヘ胆汁ハ吐キツケル嘔吐ノ數ハ前後七八回空テ胃腸ハナホ激躍シテ止マズル故テ冷水ヲ飲ミ安卧シテ身ヲセシモ動サス痛テヤ、靜マツテ午後四時過ルニ負コトヤク寐ニ就キタリ夢サノテ眼ヲ開カ正ニ午前七時ナリ起キレズレモ身体ノ痞沓ニカレヘ頭重クシテ擇グルノ力ナシ況ニヤ腹痛ナホ腹心烈シババクハ卧床ノ上ニハ八時半ノナク起テ出デシカド朝飯ヲ勿食フ力ナシ虫ノ遠シ女ノ寄テ字技マテ行キ圓引ニトリカシレ心進マズ十時四十分家出リ途中ニテ宮島幹之助カチ一ツオ中亭正帽ヲ見リ意氣揚クテ來レ逢ヒケレハ呼ビ止メテ無理ニ家ニ伴ヒタリ幹之助ハ米俵者ニテ父ヲ家久トテ

一癖アル男ナリ爾ト又幹之助今年十八歳相應ノ
學オアリ性ハ活潑ナル方ナリ併ニ何ヲ云フモ少
年ノト故賢コト様デモ悦イ物ト子ナルヲアリヨ
ロヅニアドケナキ野却テヨシ余ハ寔島ヲリステ多ク望
アルモノト信セルナリ余ハ寔島ハ今度ノ入學ノ賀シ後未
修學ノ方針ナドヲ語リナドシテシバラクハ月復痛
ク忘ルル事ニ覺ヘタリソノ内ニ在リテモ是キヲ為ス事ニ
ナシ寔島ハ三時頃ヨル間モナク小田切南秀次郎
ト云フ餘程込入リタル人物来訪セリ小田切ハ今
年二十歳顔長キ方口小サキ方色白キ方ト書キ立ツル
テ何モ同氏が逃亡シタカ罪人ニナラザルハナケレモ
角ヤモノ無イヌトオデキツルヲハ顔立々或ル娘
ハ六十八点ト價ヲブシヨシト申ス位イテ余ハ今
二点ヲカヘテ七十点ニシテヤリタイ容貞ノ記載ハコ
テキテツノ人ガリタ向テ見ルニオハ八分目ニアリト
云フ事應カメ九分ハ受合ト云フ世間ノ評判ナレ余
ハ八分位ト鑒定セリ沈着ナ様ヲ活潑デソシテ
無ロト様ヲ奔蹄合家テ受合ハナイ様ヲガ矢ヲ張リ
人ニ好カレルト見ユル何レロドコカ毛色が少シ變
ツアル男ナリ不圖レタ事カ余ト斷末由交リテ結
ビト云フテ怪シイ關係ガアルデハナシ翁人必ス
起ラ勿リ今デハ水濁リサヌ中テ坐ル余カ知ル
所デハ先ツ米沢出身ノ青年ヲ小田切位ト學オアリ且

人物ノ優等ナルモノハ無イ位ナリ

小田切ハ先諾ノ後一身向方ヲ如何ニ決スベキナリ
相考セリ余ハ色々考ヘシガコレハ中々一坐ハウヲ名シテ
古ノワヅモノナラバ後日ヲ羊ヲ南セントテ別ナリ後シ
移リテ日暮ルノ後中原定衛來ル中原ハ身ノ丈ケ
五尺セナリ馬ノ様ナ顔ニシテ鹿ノ様ナ頸ナリ面
相デハドコヘ出シテモ落和ハ清合ナリモ學徒テマハ
中々引ケテ取ラヌ男イハ悠然ト構ヘ荒ヤトシテ
居ル内ニシテリアテ五分モスキナイ男ナリ山散デ
オノ子ジヤト云フ人アリテモアルベシ

相ツビテ押し寄セ來レルハ那珂可免ルト云フ男ナリ
コ奴學カハ立派ナ落才家張本ナリモ運動デハ
一騎者ナリソレニアソク妙ナ運動モ上手ナリコハ
困リシモノナリ中專技ニ展クシテヤコリ余カ网友ニテ
即チ余ガハ同窓ヤ竹馬友ナリモ今ハ昔日ノ如ク親
密ナズコレモ是非ナリ次和ナリ

シラケシテ中原ハヨリ小田切モツバヒテヨレバアト
ハ那珂ト家兄ト余ハ三人ヲ禁リ三人奇ハ文
珠ノ智惠ハ云ヘトコデハ三人奇ハ姦シヒト云
フ女ノ縁ナル方クダラスツ法畢ハ法螺ヲ
吹キ出スリノ間ニ受ケタフリテ居ルハ法螺ノ上越
シテ口先キニモ上ニ上アリ余ハ腹痛アルハ法螺
貝ナラバ無キニ食ベラヌト思ヒテ一片モ食ハザリ

ハハ時園家兄ハ那珂ト共ニ酒飲ニ出テオテキタ
ク余ハ心曹モソ一ナ為負ニテニ人ヲ見送リタリ 余ハ
心地ナホ常ナラス修事ヲ修ムルニ休メケレハ
九時操ニ就キタリコト日判決ニ十点コシモ病
為ソナハ致シ方ナレ。

九月二十二日 (日)

今日ハ日曜日ナリ。腹合ノ宜シカラズトテ大朝儀
セリハ時頃起テ出テ新田ナリ。内香及伊左エト
リキ紙束ヲ因テコソ送り来ル品アル。由リ請テ取ッ
来リトラヘト事ナリ。因テハナツカレク早々支度ヲ
調ヘテ家ヲ出テ髪ナリ。剃テ天晴。好男子ト
ナリ。スマシ車ヲ飛シテ先ツ駿河台ニ至リ。折ヨク弟来リテ
尻ヲ直ケル。又車ヲ馳セテ香及方ニ至リ。他出テ来ク
リヨ。正午頃ヨリ。ベント云フナホ。向モアルソコ
散歩ナガリ。本町一丁目一番地小和田順之助方
ニ至リ。陸軍参謀本部次郎軍用地圖ノ中。福島山
台地方ノ圖數枚ヲ購ヒ。再々香及方ニ来リ。又
彼ヨリヨリ居リ。即チ包ヲ清テ取リ見テソノ地圖ナル
ヲ知ル。余先日地圖ヲ送ラシト父ニ告ヘリ。ソコ
又車ヲ飛シテ神保町ニ至リ。今用ト云フ西洋料理店
ニ飛ヒ。テ大ニ食食セシ。不思議ト腹痛大ニ
輕快ニ赴キ。外生ノ塊ニ錢足ヲスシテ。麥酒ヲ飲
ム。能ハザリケレバ。全ク夫ノハナラザリシ。酒ヲ飲
ムベシ。百藥ノ長酒サヘ飲メバ。万病平癒スト。我
僱理屈モ程アルモノナリ。ソコノ腕車ヲ俵ヒテ家
ヨリ包ヲ開キテ書簡ヲアルト。ホレ。ホレ。ナカレ。一ツノ失
望ナリ。夫レノ地圖ヲ持テ。夢中ニナリテ。熟覽セリ
ソレ。画ノ誤ヲカレ。ナドシテ。喜ブ。ア。限リナレ。四時。四時。

江原鋼素中々易忙ル事晴ル由ニテ春分ノ後
リヨリ五時比家見ヨリ来リ(昨夜出デシヨリ)又酒
飲ニ出テ行キタリ余ニモ行カズヤト言カシカ余
腹合悪ケバトテ謝ス~~云々~~嗚呼見ハ中ノ
暴飲家ナリ驚バタ敷クズベシ余ハ新年前ケリ暴
飲シテアルモ近年ニ嘗テ暴飲セズコレ次ノ土工員
ラ慮ル故ナリ

一 暴飲ハ月賦ノ虚弱ニ併セテ精神ヲ衰弱ス
二 暴飲ハ救培無頼ノ心ヲ誘起ス
三 暴飲ハ學術知識ノ退歩ヲ促クス
四 暴飲ハ品位資格ヲ毀損ス
五 暴飲ハ無益ノ貨財ヲ浪費ス
併シコノ位ナコトハ凡人モ知ルナラシ知レ~~群~~ハ~~族~~
ハズハ良心ノ以テ情慾ヲ制スル勇氣ナキナリ而シテ暴
飲ノ害ヲ知ラズシテ利益アリト思フモルニシテ~~即~~ケ~~ル~~ニ
紅蓮ヲ揮フツル無知ノ伎ヲアルヲ得ザリナリ
余嘗テ暴飲セシコトアルニシテ人々今ナキ余ノ目ニ暴
飲家トナスモノアリ余百方辯護スルモ斯ノ如キ人
更ニ之ヲ信セザリ余往々喟然トシテ歎シ憐然
トシテ悲シク嗚呼一タヒ盜ルモノハ終身盜ル者免ズ
之ヲ換ル女給ニ在リ世ノ少年輩ヲ原罪ノ始ノヲ慎
ムヲ學ビ王トヤ
酒ヲ飲ムモノノ主意トスル所各同カラズ余今年次ノニ

三ツアゲル

- ホ一. 食物ノ消化ヲタスルニ為メトテ食前ニニ盃ヲ飲ム
- ホ二. 遠路ヲ行ク或ハ大ニ労働シタル後ノ勞ヲ愈メテニニ盃飲ム
- ホ三. 祝儀ヲシヌルニトテ森ハ三ニ四盃飲ム
- ホ四. 寒ヲ凌キ暑ヲ拂ハルニ為メニ四盃飲ム
- ホ五. 鬱ヲ散セニカ為メニ四盃飲ム
- 以上ノ何レモ少量ノ酒ヲ用ニシ善ム
- ホ六. 客アル時ノ集會ニ臨ム時及ヒシテ類スル場合ニ興ヲ深ムルニ為メ飲ム
- ホ七. 吉事 祭礼 及ヒシテ類スル場合ニ祝ヒテ飲ム (新年ニ飲ムニシテ善ム)
- ホ八. 已ニ事物ヲナシ或ハ云ハシタルニ氣力ナクバトテ氣ヲツケルニ為メ飲ム
- ホ九. 已ニ不平ヲ抱キ憤ニ堪ヘズニシテ飲ム
- 以上ノ通例 多少過飲ニ至ルモノナリ
- ホ十. 歌舞 酒宴ノ目的ニ見テ戯ルニ至ラズニシテ飲ム
- ホ十一. 遊郭トシテ下ルニシテ情慾ヲ便カシカニ為メ飲ム
- ホ十二. 性毒酒ヲ嗜ミ酒ヲツケバ片時モ居ズニシテ隣サヘアルニシテ飲ム

以上ノ尤モ悪性ノモノニテ通例ノ暴飲家ハコノ中ニ
在リ余ハ一日リセマテノ主意ヲ旨クモナシハ以上
ノ主意ヲ旨クシコトハ常ヲコトナキナリ
六時四十分(三連)未訪ニ意外ノ珍宴ナリ大ニ
喜ビテ先三十分餘ヲ三宅ハ余ヲ牛肉店豊国屋ニ
誘ハリ余ハ腹工合要キニモ一割セズ人ノ馬走ナレバ
ト云フ野ハツ逞ツレテ酒ト肉トニ飽キリツレコリニ
宅氏ハ：赴キ教學ト醫學ト背競ベヨク云ハバ返
知識ヲ交換シタリ中々有益ナルヲ先ナレ思フ
時ノ費シ十時過キ別ラ先ケ全四十五分ノ帰宅シ
テ見ハ又ト那珂トハイタク酒卒ヒルヲ採テ大ニ字
ナリ：卧レ居リ余ハ他人ヲシテ己ノ室ニ一泊セムル
ト非常ニ嫌ヒルニ由リコノ体ヲ見テ殆ド呼吸
モ止マリ嘔吐ヲ催ス斗ク感シタリケレモ
得テ修メテ十一時三十分ノ寢ニ就テコノ日判
決三十点ノ可ト大學日ト日曜ニ二十点等ノ
規則ニ從ヒテ五十点ヲシ

九月十三日(月)

午前八時起床今日ハケシ鬼屋セント思ヒシ那珂
 ト家兄トカ眼覚シタレハ再ヒをう告ノ幕トナリ那珂ハ
 昨夜●醉中乱行シタルコトナド面白カリテ吾ル余ハ
 昨夜ノ夢ヲ思ヒ出シテガツクイト感じ入ツタツソノ夢
 ハ?ソレハ云フマイ、ナセ?...怪シ夢ジヤナカク怪シセ。
 然リ実ハ怪シカリナリ実ハ余ガ浮行ノ言ヲ得ヌ又オ父
 母ニ別レテ去リテ家ヲ去リカ父母ノコトアツカシテ忘ラヌ
 (引キカレテ)今一度ト思ヒテ家ノ前ニ来リカ山ト思ヒカ
 シテ又出テ行ク片炭車ハ已ニ發シテ演笛ハアト強ク
 余ハ愕然トシ夢醒ノルカ實ニ不思議アハアルマカ。
 ナール程ソレハ意味ガアツツダ哩。
 余ハ腹工合ニ大ニ決マツクテう告モ面白ク思ヘツケラ
 シテ田中、中山ノ兩才子來ル次テ家ヲモ来テオセマ申
 部屋ニ六人豪傑押合ヒナガラ法由累ノ吹キ
 廻シハ雷込頃ノ大一座ナリ那珂ハ四方ヨリ攻撃
 ヲ蒙リ一言モ出ス大ニ閉口セリ
 十一時田中、中山ヨリ十二時區キ中山 押玉リヨル
 一時又オ三人ニテ駿夕台ニ至ル平田一家不在ナルコト
 余ハ日暮マテ待タント決シ教學ヲ研究ナドシ
 又御供カ一身上及ヒ修學ノ方法ナドヲ受テ聞
 カセタリ兄ハ石坂虎次郎方ヘ行ク三時區キオ及
 ヒ御供ト今用(云)料理店ニ行クオモ御供モ

今用、度、美、に、感、せ、り、然、し、は、こ、の、庭、に、只、二、華、美、な、ル、ハ
ニ、テ、所、謂、等、高、曲、雅、な、ル、氣、韻、な、ル、只、こ、の、俗、眼
ヲ、喜、ば、し、ム、ル、ニ、過、ギ、ザ、ル、ナ、リ、日、暮、後、厨、後、夕、は、
趣、キ、叔、母、ニ、乞、フ、洋、服、代、ヲ、得、タ、リ、但、し、叔、母、ハ、実
ニ、不、愉、快、ソ、ニ、苦、リ、キ、ツ、テ、金、ヲ、渡、サ、レ、タ、レ、バ、余、モ、何
ト、ク、自、白、カ、ザ、リ、キ、夫、レ、ヨ、リ、御、供、カ、馳、走、ノ、ビ、ール
及、羞、干、ノ、圓、子、ヲ、得、テ、大、ニ、喜、ビ、七、時、半、迄、ハ、ヒ、テ、
厨、後、夕、は、出、テ、家、に、歸、リ、テ、氣、ヲ、共、ニ、且、ツ、飲、ミ、且、ツ
食、フ、味、キ、テ、良、ナ、レ、コ、レ、ビ、ール、ノ、味、ノ、外、ニ、御、供、即、ケ
余、ガ、尤、ニ、親、愛、マ、ル、用、友、ガ、真、実、ナ、ル、愛、敬、ノ、情、ヲ、以、テ
贈、ル、心、ヲ、味、ハ、バ、ナ、リ、ハ、時、半、迄、キ、ヨ、リ、サ、シ、ク、勉、メ、テ、
セ、シ、思、ヒ、カ、酒、氣、充、分、ニ、テ、心、ニ、マ、カ、セ、テ、九、時、半
以、後、ノ、眠、氣、ヲ、催、フ、テ、堪、ヘ、難、シ、十、時、半、後、就、
ク、コ、ノ、日、判、決、三、十、五、点、ノ、大、學、日、ニ、付、キ、二、十、五
ヲ、七、十、五、点、ト、ス

九月二十四日(火)

午前七時起き七時三十分登校時名實通り半課
ヲ終リテ家に帰ル今日ハ洋服間トモ及虎次郎ト
ガ来ル笑ナルバイヤクト手グス子引テ待テモ待
テドモ更ニ来ラスト其時幸頃石坂先生ノコト来リ
同氏ハ花テノ山出シテ花ノ都ノ事情ニ通セス
中々ニ突止ト云フモ愚ナリ(ナド)悪口ハ云フマシレバ
ラカシテ月齋出シノ本家丸薬製造家小宅4次
郎来ル4次郎ハ尻重キ人ナリ(判)行平トサマアル
ベシ同氏ノ体量十五貫八百目ト云ハバ午後六時
三十分兩人帰ル余ハ今日ハ十点取テモハ熱心
ニ執ニ向ヒサシク學課ラシラニ向モナク岡村節茂
来ル余ハ忽チ方向ヲ轉テイ谷ヲ登ラシ冬ニ相伴
フテ薪竹ト云フ夜席ニ行キ越ハノ義大丈ノ間キ大
樂ヲリ帰途甲野屋ト云フ牛肉店ニ登リ酒肴ニ飽キ
岡村ト別リ家ニ帰りサシク學課ヲイテ又
ラ著書ヲ記スルコトナリ時計ナニ二時ヲ示ス
因テ癡ニ乾クノ月ノ判決五十五点ナリ

九月二十五日(水)

午七時起キ例ノ通り登校正午家に帰り見ハ長
谷部源次郎来リ夕一時迄テ在リ再ヒ登校
四時帰宅今日コソハ八時位ヲ得シモ夕急ニ律如
令ト咒文ヲ唱ヘテ大ニ坐敷ノ整理ヲ始メテ
洋服商刺ミナク位ニテ夕クアトハ用友那珂
免ルヤト入り来リコソハ伊東氏ガ内免ノ強デウ
坐ロ一カコソハ免雨殿内珍シコトテ坐ルト上部
バトケテモトケテ又前坐掛ケ下女内子屯ガ夕會向
ラ給事スル頃トテ少シク兄ヨル那珂ハ命條ヲ見
ニ向テタル夕余ハ専事トリカレシバコソテ那珂
ヨレリ因テ見ト爲ニ没湯ニ赴キリヨレハ二ハ時ナ
カレ元氣ヲツケントラビールヲ取り寄セテ打テ
飲ニ敬慕スル可貴セシカ六ヶ敷ノシ更ニ分ラズ
只タ茫然トシテ手ヲ拱ク斗リナリ直ニビールノ
効能アル眠氣催ツシテ甚ヘ至シコソハ
無怠ヤロ措シトバツケリ開ク眼ノ光リ見ル
マニトコト冠ガレバ今ハトテ寢ニキレト時ニ十
時ニ十分ナリコソハ判決四十点クソ日月
コソハ十点ヲトルツ

九月二十六日(木)

八十点取ルツノ意気とい昨日斗リ今朝モ朝寝ツキ
六時ニ起キ八時ニ登校首尾ヨリ學課ノ仕マテ家
ニヨリスグニ勉強ト思ヒタド終日疲ニ負カシ
ヤウヤウ日更食ヲ終ツソコソ散場ニ出ケケ田中
ヲ訪フ不在ナリ次ニ岡村ヲ訪フ又不在ナリ今度
ハ中山ヲ訪フニ同ク不在ナリ最後ニ小宅ニ次
郎ヲ訪ヒテ幸ニ在宅ナリ學課上ヲ洗凡ソ三十
分斗リ家ニヨシ七時過キタリニ勉強ト思ヒ
レニ心進マズグツトヒテハ時半頃マテ何一ツ
ナストモナクツグレタリ夫レヨリ終リ豊國ヘ押カケ
ニ合ノ酒ト辰干食ヲ復ラフクラシ家ニリヨテ直ニ
寝ニ就クハ十時三十分ナリ八十点ノ終業ハ今
日僅ニ四分ノ一ナリタリ(即チ十點)
今日ハナセ勉強ガ出来ナイダローナセ気力進マ
イダロー?コナセノ二字ハ中々大切デ内坐ル
ソ返答ハ容易デ内坐ラヌガ一ロニ申セバ例ノ
空想ヲ起シタル次第ニテ一ヒ空想ヲ止セバ
中々消滅セズ而シテ之ヲ消スノ最良藥ハ常
ニ百藥長ナル酒デ内坐ル。

九月二十七日(金)

七時起キ八時登校正午家に歸シ長谷部源
次郎来リ一時再ヒ登校五時退キリヨ宅
夕飯向テ終リテ田中苗左郎ヲラフ中山茂彦
ツテ在リ共ニ愉快ニテ先ヨナレ一時暮ノ後
家ニ歸ル間モ田中、中山、兩人打テ連シテ仇
討ケト入り来シ主客思ケテツカヘタリ笑テ
テ頃ヲ先ヨ医事ニ終ル中山茂彦ヲ見テ日ニ
間、骨ハ中空ナレバ……言未ク終ラズ壁ノ
キ連中ナレ余等、忽チ排撃ヲ加ヘテ流石ニ
テノ名人ナル中山モ一言半句モ出ス大ニ
笑カリキ

夫ヨリスジト酒トテ命ニ四人且ツ飲
酒ニ愉快極ニ蓋シ田中、中山、兩人ハ
富ニテ平常ノ事ニ思ヒ然レモ亦能ク世情
ニ入リテ午後十時兩子歸ル余等ニ
シテ得ル所ニテ教書ハ余ノモ嫌
モ余ヲ苦シムル所ニテ七面倒ニ
モトク知ルノ必要ナシモ
スルヲ費ス甚ク早チ余ハ
壽命ヲ縮メタル午後十一時
特別ノ全義ニテ四十点ヲ
(実ハ二十九点)

九月二十八日 (土)

午前十時起ハ八時登授十ニ時中村、木子、両町
授ニ伴ハテ砲兵工町内後集園ヲ見物セリ、庭
ハ即テ水戸候ノ後園ニシテ二百年前ノ築造カ、西
ノ長大石三萬坪許リ入口ニ門アリ、其構造尤モ奇巧
ナリ、木子先生モ平セリ、客アリ、後集園ト題ス、門内
ハ一細径アリ、石ヲ以テ之ヲ疊ニ、左右ニ丘ヲ起、起伏シ
テ、木子先生モ此路ヲ登リ、其路傍ニ大石散在シ、
小流、数回ヲ廻リ、草木、形状、丘陵、姿勢、凡テ自然
ニ、醫藥ヲ行ク、一町余ニシテ、大池、畔、出リ、池面
ハ、大半蓮葉ヲ以テ蔽ヒ、其間ニ、盛花ニ、頃、則チ思ヒ
テ、行ク、路、十間ニシテ、西湖亭ニ至リ、亭ハ池ニ臨
ミ、廣土、西湖ノ景ニ、概シテ、即チ水戸候ノ休息所
ニシテ、結構、華美、是レ、ハ、ナカレ、モ、明治十三年ノ大災
ニ、カ、レ、因テ、又、新築、ス、云フ、亭ヲ去リ、池ノ邊、ハ、一山
アリ、崎嶇、平陂、登ル、一町ニシテ、絶頂ニ、觀音堂アリ、
四方ノ眺望、尤モ可ナリ、又、行ク、一町ヲ行ク、溪ノ流ヲ
過ル、ハ、白表、寂、寺ノ廟アリ、得仁堂ト題ス、堂ヲ去テ、又
行ク、一町ヲ行ク、大石、中流アリ、溪流ニ、架ス、橋、精巧
ナル、穹隆、築法ヲ用ケ、其ノ構造、ノ、セ、ク、破、壊、セル、ハ、
安政年間ノ地震、爲メ、ナリ、云フ、橋ヲ過キ、行ク、
路、十間ニシテ、八卦堂アリ、即チ、筈師某ノ築レテ、
堂ヲ去リ、池ノ對岸ニ出ル、ハ、平地、連リ、恰モ、深山ヲ

出テ村里ニ到ル思ヒアリコノ也又田ニ接スル所アリ
平野ノ向ニ十丘アリ松樹ソノ上ニ繁生セル所アリ
数丈ノ古松数々トテ駢列セル所アリコノ也三保ノ
松原ニ接スル所又行クテケヤニテ一瀑布アリ高
サ六尺余然レモ意匠拙クテ雅致ニ乏シキハ惜ム
ベシ次テ池ヲ廻リテ西湖亭ノ傍ニ出テ區主歩泉
ヲ經テ歸途ニ就テ區主歩泉ノ碑アリ左隣一音生
撰并書ナリ再々ニ曰ク

道ノベシシ水流不柳かサシビシトて立や吃けせ
凡テ此ノ庭ノ景状タル東海ニ五十三驛ヲ授セルモノ
ニテ山岳アリ溪泉アリ峻嶺アリ深谷アリ宛然一小
天地ヲナス思フニ水戸候ノコ園ヲ作ルニハ深窓ノ中
ニ暮ルテ世情ヲ矢心ザルモノハ為ニ難シ幸而及山野
ノ實況ヲ示セルモノナラン園ノ構造ハば丸夏妙ノ冬ニ
外モハヒテ峻山去テ沃野至リ沃野去テ森林至ル
カ如ク櫻葉アリ紅葉アリ蓮アリ四時ノ風景悉ク備ハリ
鳴ノ半ノ園圃ハ真ニ崇高ニ優美ト云フ可クモ^其ニテ本
邦中多クソノ比ヲ見ザルモノナラン矣

午後三時ヲ後樂園ヲ去リ小田切南野次御所ヲ
訪テ、楠川良策、兩人芝ヲ来リテ在リ共ニ一白^酒ヲ飲
シ大ニ歡^喜シ酒ス酉甘ナル頃家兄モ亦来ル余ハ酔^半ニ
シテ寔島幹之助(小田切氏同族ス)ノ為ニ歡言ヲ吐キ次テ楠
川ト語^テ交ヘ終ニ激烈ナル議論ナリ幸シク石裂^キ

至ラス止シタリ午後五時半喜見客ヲ田切三氏ト共ニ
氷田庄甚町ノ今金控リ再ヒ酒ヲ酌シ愉快限ナシ
午後九時全樓ヲ去リ全儀楽所ナル松幸ニ至リ
更ニ酒ヲ酌ム下婢等余等カ騷喧ナルヲ厭ヒ大
ニ無礼ナリ余等憤怒措ク能ハス主管命シテ主人
系ハ家婦ヲ呼バシメ面々之ヲ叱責セシメ余等
は等畏テ出デス已ニシテ漸ク深ク漏斗
一時ヲ報ス家僕等交テ来リテ罪ヲ射シ余等
ニヨランヲ乞フ余等同クヌ一時半頃家婦
終ニ来テ罪ヲ射ス余等微然ニ之ヲ叱責シサキ
無礼ヲ加ヘタル婢等ヲ呼ビテ一々罰豆ヲシテ
罪ヲ射セシメ終ニ同座ヲ去テ辱後夕迄一泊ス
他シ余等ノ松幸ニ於ケルテ判中家兄ハ懇睡ニ
テ鼾雷如シ余等三人ハ幸シテ睡魔ヲ拂ヒ得タ
リト大ニ苦業限ク覺ヘタリ嗚呼余等カ今回ノ
所業ハ費スヘキカ誰更ニ誰スヘキチ余ハ自ラソレ
難シハナラ白状セサルヲ得テ余等女奴ノ田切ハ
於テ酒肴ヲ食リナホ屋ヲスルテ今金控止ル已
ニ不可ナリ而シテ又更ニ松幸ニ赴ク更ニ不可ナリ而シテ
下婢無礼ノ厭ヒテ深更ニ至ルマテ寝スソノ筆僅カ
ク餘狂ニ近キナリ余等自ラ狂ヲスルモ人誰カ狂ヲス
トセンヤ余等ニテ狂ナラシムルモノハ誰ソヤコレ酒ヲ
然レモソノ卓然トシテ意思派ニシテ余等ヲ射罪セシメ
ルハハ費スヘキハ何ソツト今日ノ判決ニ十點

九月十九日(日)

午前十時起キ九時迄ホ共ニ夜川町ニ歸リテ居ラス
十一時迄ホ家兄亦歸ル余ハホト共ニ家兄ニ葎酒ハレ
テ勸ム家兄肯ヒス余等 説ク立場ニ利害アリト迫
リケル家兄モ終ニ葎酒セシ断言セシカ内ハ如ク
ナリシ午後一時余等三人馬込内村連次郎
ヲ訪ヒテ居ラス一時ヨリ午リ連次郎ノ著文良職先
生ニモ面會テ面シ夫ヨリ共ニ飛鳥山ニ著書シテ
夫ヨリ徒街上野マテ來ル途中ハ四人ニテ四方山ノ
物語リト興アリ波螺ヲ吹キ損テハアブシク
ルモアリトナンカンノ向著ヲスルモアリ笑ヒトヨソキ
根岸ニ至リ岡野屋ニ入リテ此ノトビニ一トク食フ
ルガ葎酒ノ著文ニヤアソシ夫ヨリ上野ノ園ヲ經
テ直分ニ出テ内村ト分テ午後六時迄ホ
六時三十分ト迄ホ次郎ヲ訪ヒ共ニ著書ヲ研究
ス八時洗湯ニ赴キリ帰ル後ケレテ居ラス
修ム但ニ著書ノ研究ナリカ多ク得ルコトアリ
テ今日ノ遠足ト洗湯ト為シ身体モ精神モ大
弊汚ニ動ラズスル氣カレテ因テ眞村先生ノ
著作ニむラケテ居ラス午後十一時迄ホ就
テ日 料 決 六 十 点 ナリ

九月三十日 (月)

午前七時起床登校午後四時半帰宅して一
休ミシタム後夕飯喰ッシタムシバラクシテ中山を
来リ例ノ閑話ナル迄話ヲ始メタリニ時暮キノ
會況ノ後中山ハ归リ余ハ夫レノ一寸静寂ニ好
學ト私語ヲ研究スル教習ノ問題六ヶ數ルテ
歸漢難ク大ニ難義セリ午後十一時寝テ就
コト日新決四十五点ナリ

十月一日 (水)

午前六時起床。急ぎ新聞を讀み、朝學の研究に
テ登校。首尾ヨク授業。終へ家リヨリ暫時
休息。ア駿河台ニ至リ御供の傍ニメハ家ニ在リ
テモ徒然ナシ。故等旁ニ奉リテツ夫レ御供用場
ヲ誘引シ共ニ坂虎以即跡ハ石坂ハ將津專宿
セトスル馬登ガリハ時過キ三人ナリ連シ今用ト云
フ牛肉店ニ押入り余ハ禁酒ノ身ハ麥酒ヲ用テ肉
ヲ食ヒテ餘リ面白キ筈ヲカリシヲ答テ相手カ
ナト違フカラ(ナト熱ハ吹クマイ)。一休ニ坂虎以即
ハ胆ハヒテ昇座ヲ奉津フテ見身レ斯ラ云トテ
レモ取り處ガナイ様ナシ。又温順ニテ篤実ヲ柔和
ニシテ謙讓ヲ(無暗ト上ノ下ノリスルヲ勿レ)。
午後十時半家ニ歸リ十一時三十分寢。就
今日ハ何一ツ學ヲ修メテ二十点ニテ充分ナリ
トハ雖有キ思召シ痛ニ入りテ涙カホレル以
テナリ

十月二日 (水)

午前七時起き八時登校午後四時授業終る余
ハ送家學友眞水等支山下登次郎河合武次三人リ
勸メテ共ニ中集會ヲ開クト云フ三人同意シオケ申出
テ出立赤門前ニ至リテ眞水ハ不同意ヲ表シ次テ
山下モ廣止ノ説ヲ取リ固テ余ハ已ムヲ得ヌ河合
ト共ニ上野マテ散會シ舞グルト廻ツテ再ヒ新橋
町ニ來リ共ニ豊國屋ニ入リテ酒肉ヲ食シ鳴キ
山下、眞水モ共ニ來レバヨカフヲ者ト思フモ今更
詮方ナシテ話ハ色ヲアリタレ先ツクダラキ倦ラズ
イラズベキ程ノ便直ニ午後七時半家ニリヨリ
カ酒氣アレバ菓子モ手ニツカヌ只茫然トシテ居ル
ヲヘ那珂勉ヲ押シカ來リ必定洋服什ノ物
全催使ト勘定シタルバホツツレ君ニヤル金ガアルハ此
方ヨリ先ツ越シテニ内ノ金ヲ渡シタル巴果ヒテ面笑ヲ
アツシコリヤ辱ナシ難有シコレヲアツナ大層成就トハ
テモサテモ惟レナシ話シテ那珂ハ會々ニ行クオノ
勸メカ余ハタツテ辭退セリ八時半那珂ヨル余ハ
ラレクハテ語リ家屋構造トヲ研究セカ睦庵ニテ
余ヲ驚フ余防禦ソノ休ニ尽キ十時四十分迄
就リコト判決三十点トス

十月三日 (木)

午前五時五十分起新有子後登校正午食
明ハ今泉嘉一即来今泉ハ上州金花輪村、
人ニシテ熱心家、勉強家、研究家、腹力家、大食家、
両刀使ヒ、軼此様ヲ軼ケル人、氣知ル人、ナドノ
評ヲ受ケタルヲ以テ其人ヨリ大異ヲ知ルベシ午後一
時再ヒ登校四時課業ヲ終ヘテ今泉、真水ト共ニ
十島憲之先生ヲ訪ハシ思ヒヨ時居キラステ後日
約シ家出テ大客一麾ト職員録ヲ引キテラベテ
學士、相場ヲシテ大ニ樂ソリ日暮ヨリ相場ニ出テ
大客警帽ヲ見舞ヒ意氣揚クシテ岡村龍彦ヲ訪フニ
不在ナリ猶リ麥酒ヲ牛飲セシ思ヒシカイヤ(麥酒セル
源因ハアハコホル分ヲ忌ムルニ麥酒ナリトテ牛飲セ
バリ)寢坊シ腹中ニ食ヒテテオーヤク家ニリル
夫レヨリ直ヤニ洗湯ニ赴キ積ル坊ヲ熱シテル心也ヨキ
テ限ナリヨリテ直ヤニ只ト共ニ牛店(イロハ屋)ニ赴キ
ツル實ハ酒ガ飲ヒタキ所ナリト是レナク麥酒(コレモセバ
イ、ハ)ニア旬ニ合セ(コレハタリ麥酒)方ニ餘ラ程不
経路ガ)肉ト飯トヲ食ヒタルハ何ク(以テル心也ヨクナリ)
午後十時帰宅ホンノ6リ斗リ學課ヲ修メ午後
十一時半寢ニ就クコノ日判決三十二点華氏ノ
氷点ト来ニ居ルカタソラト寒氣ガスル様ジナコサ
イモニ三十点テハ凍ヘ死ニ至ルカモ知ルヌワイ。

十四日 (金)

午前七時起きハ時登校十二時帰宅セシム
申田中苗を即氏来ル後ヲ案内シテ教場及博物
場ヲ一覽セシメタリ家に帰り見ハ小田切、長谷部、
寔島ノ三人来リ居リ一時マテテを言シテヨリ再ヒ
登校四時半家にヨリクダラヌ事ヲ書キ綴リナドシ
●晩食ヲ終レバ日モ暮シヌカト頃ニテ田中苗を
即押シ寄セ来ル同氏ハ昨夜過夜ノ勉強ヲ行ヒ
タルノ眼ヲ病ミテ大ニ弱リテ夜半時ウケリニ
シテ中山夜夜入り来ルコト田中行得ヲ探ツコ
ト来リナリ余ヲ訪ハント意ニハアツザルナリ其
証据ハ中山ト田中ハ医場上ノヲ言フ面白
クソレヲ悉スレバ中亭主タル出者ニハ何モ構ヒ
ナケレハナリ(ナド、愚痴ハ禁物)七時頃兩人
归ル余ハ鬢剃リニ出テサ刻ニシテ家にヨリ鏡
ニ對シ鬢ヲ撫テ大ニ喜ブ旬モツ真水英支押
シ掛ケ来リ英支ハ中々寔家ヲヲ言フ中々
寔ノ事ナリキ就中余カ教場ノ社會的ノ現象
ヲ復明シタル論ハ尤モ彼リ注意ヲヒキ起セリ
十時頃真水归ル余ハ非常ニ空腹ナレ見テ
ヒテ牛店ニ入りテク腹ヲワクロヒヨシ麵類包ヲ買
ヒテ大ニ食フハ腹ヲヤク満ケタリ何リ事課ヲ研
究シテ思ヒシカ時ナキト睡魔ノ襲撃ニタラス

午後十一時四十分寝就ソコノ日判決ニ十七
点トス今日ハ黒川眞預&ノ日本建築論ヲ讀ミテ
サレシ得ル可クアツタルハ大ニ愉快ニ度ヘタリ
加之今日ハ数多ノ朋友ニ訪ハレシ故ニ倍快ニ感
致ナク我カ留守中ニモ一人ノ朋友ニ由リテハ
余ハ岡村カ小宅ナラント思ヘリ 余ノ
余ハ朋友ニ訪ハルイラ喜ブト申セハ(文學家ナル
コトハ自ラ明白ナルヘシ我カ朋友ニハ 寄稿アリ西
治家ノ実業家アリ 放蕩子アリ 勤勉家
アリオ子アリ痴人アリ 羨方年アリ (コレノドーダカ)
佳人アリ (曰ク怪シ) 身一ツテ四方ハ面ニ斬テ
廻ルヲノ心勞ハ何程ニアホト思召スソレニ佳人
セ羨少年ハ常ニ訪ヒモ来ズ 来ズモガト思フ人ニ
訪ヒ来ルコソ 遺憾ナレ (来ズモガト思フトハ決テ
貴殿ヲ指スニ非ザレハ必ズ此心ニ介セラレ但シ
貴殿トハコノ日ニテ讀ム方ナリ)

十月五日(土)

午前十時起キ八時登校十二時帰宅一時半外出
先づ岡村龍彦の訪フ不在ナリ因テ馬場迄ニ至リ御
供の訪ヒテ行クニ時間余 御供ノ為ニ羅馬史
及世界歴史大要ヲ復キ聞カセタリ四時半御供
ト共ニ散步ニ出テ連根町ノヤブソバヲ食フ丈ニシテ
御供ニ別シ余ハ神田五軒町ノ長島惣冬即チ
訪フ長島ハ著實温厚ノ人ナリ余ト見ザルニ半年斗
リナレバ長島モ大ニ喜ビ共ニ上野ノ四ノ茗荷亭
時ニ月半空ニカッテ一天雲翳參差カレバ臍口
ニ地上ヲ照ス気色実ニ無類ナリ月ハ同上野ノ
同上野ナレバ余ハ今宵セムノ愉快ニ感スルヲ
未タ嘗テナシリ故如ク夕トノハ夕一ハ余カ信友ト
相伴ハルヲ才ニハ月ノ清明ニ過キザルヲ才三ハ
上野ノ寂寥カク才四余カ心中全ク憂慮スル所
ナキトガリ原因トハハナリ上野公園内ヲグルト
廻リ終ニ再ヒ五軒町ニ戻ラテ咖啡茶館
ニ入り流石ト興ニ入ルハ時半同館ヲ出テ
プラト家ニリヨレハ九時ヲ過キタリ家にハ兄カ若
クハ行キタリト書キ置テ余ハ若竹ヲ好ムニ
ガレ月ノ慶セバヤト思ヒテ九時半遅キ館ヲ
出掛ケタリ先づ本館通り全館通り龍岡町
湯島辺ヲグルク廻リ廻リテ月ヲ眺メノ密ニ内

次弟=空腹=ナラテ甚ハ難キマデニナリヌ 即チ牛肉店
(10ハ屋)ニ飛ビ込ミシニ全店ニ医科学生大村清
郎(余ハモト用友ナリ)弟ニ高オ中學校物理助手益城
源亮ヲ兩人来リテ在リ共ニ乱醉シテ放歌諧謔
スリ醜キヲ言フベカラズ余ハ見付ケラシト少キ
体ヲ隅方ニヒマセタリ身重ヲ六錢五厘ト云フ
大マノ勘定ヲ拂ビ(囊中ニ十錢銀貨一枚ナリキ)
酒ナリ飯腹ヲ膨ラカシテ全店ヲ立ケ出テサ
シ散歩セシ思ヒシカ不思議ナル哉今マデ面白
カレ月光ハ急ニ面黒ナリヌコレハ牛店樓上ノ
景況ヲ目前ニ現ハレ来ルカ故ナリ嗚呼余誤
テ彼ノ俗家ニ入リ可憐優美ナル夜世
ヲ傷ビタリ余ニ深ク心ニ之ヲ耻止ダザルヲ得ヌ
一鉢月ノ賞セシトナラバ本郷市中ヲ遠ク去テ
墨院系ハ駒込谷中辺ニ散歩スヘク空腹ニ
ナラハ一草ノ屋ニ腰カケツキヌキ園子一
串ヲ食フベカクナリ午後十一時三十分家ニ
リヨリカサシモ寐気ヲ催サス勉強セシ思ヒシ
カシモ余ヲ好ミカラス僅カニ14語ヲウケ
研究シテ十ニ時寤ニ就クコノ日ノ判決ニ十
四点トス

十月六日 (日)

午前六時三十分起中朝飯前、仏語ヲ研究シ七時半迄出テ山岡ヲ出テ訪ヒ相共ニルドルス、レマン氏ヲ訪ヒ生牛曹不在ナリ折角出カケタルニ空ク帰宅スルモ残念ナク思ヒ故ニ人ハ遠足ヲ企テリ余ハ山岡カ案内ニ隨ヒ小石川同心町ナルレマンノ宅ヲ西北ニ進ミ大塚町東鴨村ヲ經ル頃ニ人ハ八犬傳中ノ記事ヲ思ヒ出シテ老話シケルカ、彼、九塚山ハ今、西片町ニシテ即チ九山ヲ指スモノナル由山岡ノ説ヲリ左モアソ進ミ池袋村入り井山岡ハ余カ物語ルル標池袋村ノ人民ハ一様異ナル人種ニ屬シ凡ソ人情全ク他村ニ殊ル由井正五郎氏ニ云フ又世傳ニハ池袋村ノ人ヲ召使フ家ハ必ス禍ビテト云フ傳フテ例チ一筆ヲテテキレタリシカ余ハ信ズル能ハズ進ミ板橋町ニ入り町中ヲ巡覽スルニ町ハ戸數千戸ニ近ク中々繁華ナリ今朝マタキナルニ三ノ着者、貸坐數ノ格子芝キヨリ娼妓ト戯レワザリレハ余モ氣ラワルクセリ(チクトハマー?)板橋ヲ去リテ王子村ニ出テ飛鳥山ニ昇リテ風景ヲ覽スル頃細雨降リ来リ火口ノ歸途ニ就キ鴨居村ナル内村達次郎氏ヲ訪ヒテサレタリ件自シ午前十一時四十分帰宅シ見ハ家ヲ来リテ在リ在テ一時間許リニシテ岡村節子入り来リタリヨキ高シコフ

15 参上ト直ク渡リ合ヒテ 論ヲ始メテ 余ノ朋友
中余ト文學美術等ニ就テ 論ヲスルモノ多ク
龍及子アルニナルハ 余ハ常ニ 龍及子ニ逢フテコレ
ヲ論ズルヲ 樂トセルナリ 今日モ充分ニ 論ヲ
終シ興イキ尽ガシテ 午後五時 區ト同サリヨ
ル余ハ直ニ家ニ出テ 大塚通 佐清 隆等ニ 臨ミ
テ 第一席 野尾 景範氏バレーノ 演説ニ 臨ミ
題ニバレーノ 沿革史及ヒツノ 製法 ツノ 種類
等ヲ 述ベ 且ツバレーノ 延長シ 費用ヲモ得テ
終ニ 臨ミテ 鉄ノ 工用ヲ 述ベ 日本ハ 初立団
トシテ 一日モ 鉄トカレバ クラス 鉄トケレバ 固カ座
弊シ 武蔵 振ハト 論シ 製鉄ツヲ 設ケルニ 必要
ヲ 懇々ト 論ジシナリ 第二席 木下 廣次氏ハ 授業
賠償ト云フ 題ニテ ソノ 理由及ヒツノ 実施サレバ
キ 場合ヲ 説キタルカ 野尾氏バレーノ 存否 且ツ 面白
クザリキイテ 入場券代金五銭ノ 價ハアルニシテ 入時
半閉場 夫レヨリ 後ハ 至リテ 一休ニシテ 演説
景況ト云フ 物アリカバ バレーノ 歴史ニ 予ヨリ 家ニ 歸
リハ 十時ナリキ サレドモ 學理ヲ 研究シ 午後十一
時半後ニ 就クコト 判決 三十七点トス

十月七日 (月)

午前十時二十分起八時登校三時帰宅 眞水
英史、山下氏次郎兩人來り共ニ構造強弱論
ヲ研究ス四時過テ兩人ヨリ引キテヘテ洋服
商來ル余ハ裏街史ヲ翻譯ニ從事セシニ 軀ヲ日
暮レ洋服商歸ル夫レツ洗湯ニ赴テ田中由左
郎氏ニ逢ヒ浴後直ニ田中ヲ訪ヒクヲ論及ヒ
ハシオムガシノ警古ニ他事ナク午後九時四十分
家ニ歸テ一ナ好字ヲ研究シ又構造強弱論ヲ
研究ス中晝飯飲ク餐ニ來ル余銀ノ股ニ
刺ス勇氣ナクハ終ニ降参シテ午後十一
時寢ニ就リコノ日判決四十八点トス

10/4
美竹史
の翻訳

この書は、
明治二十九年（一九〇六年）
に、東京で出版された。著者は、
佐々木高梧（ささき たかご）である。
この書は、建築の歴史を、
西洋から日本へ、そして
日本から海外へ、という
流れで述べている。著者は、
建築の歴史を、単なる
技術の進歩としてではなく、
社会の発展と結びつけて
述べている。この書は、
建築の歴史を知るための
重要な参考書である。
IN pue

十月八日(火)

午前七時至八時登校四時帰宅朝夕の交はつて
時の變に藝術史の知識に力をつけ終日「舊」の
舞の中原定衛ル者押しかけ来り居居上、言語の研究
也余に内定と合はる言語、研究、加ハツテ抑々余、失
仙招、三箇國ノ語、通スルヲ以テ(夕トハ有名無実ニセシ
顧問官ノ深職ヲ任命シテ八時頃中原ノ悠ナルヲ(相
カワズ)此ノ支ヲ玉ツ余ハ史ヨリ仙語ト構造法トヲ研
究シ十時頃迄之ト共ニ例ノ牛肉店(イロハ)ニ赴キ
酒食ヲ食ボツテ余ハ家兄ヲ諫メテ酒精ノ害ヲ以テ來
酒ヲ絶メテ專ニ學業ニ熱心セシメテ請ヘテ蓋シ余ハ
家兄ノ酒量ノ著シク減シセト家兄ノ精神的作用ノ
甚シク脆弱ニナリテ見テ竊カ憂慮スル所ナリ
借テ、牛店ハ客ノ拂ヒ多カコトヲ取扱ヒ要ニルノ
風アリ先日余ハ僅カ六錢五厘ノ私ヒヲセシ、非常
冷淡氣ヲ待遇受ケタリ元來私ヒ多クハ少クハ均シ
ニ界クル以上ノ同等ノ取扱ヒヲナシ至者ナリ
斯ク尋差ヲ立ツレバ凡俗ノ已ヲ得ザルノ度ニ由テハ
申セ余輩ハ只假難クニ堪ヘザルヲ(何モ出者ガ
冷淡ナルニ由テカ云フハ此ノ世間ノ事物ノ思
フニ皆斯クナルナラシ何事モ金ノ世中惡ムル
十一時家ニヨリ十一時半寝ニ就クコト、判決
二十八点ナリ

十月九日(水)

午前七時起き八時登校十二時帰宅して休
息せしめ畑畑の土を汚せり一時再び登校四時
半帰宅一休ミル内日ハ早クモ暮シタリ茶
ヲ喫シテドレバく學課ヲ見タレモ一ツトテ纏マ
リタル仕事ハセス無駄書キツタリ数学ヲ研
究シタリ佛語ヲ研究シタリ日記ヲ付ケタル内
時ヲハツンぐト立ケテ十時ヲ過キタリ今夜ハ
何トカ勉強ノイヤナ晩ナリ(勉強ノ面白目免ハナ
クセ)只色ヲ空想ヲ画クガ面白キ晩ナリエー
マイヨ寝テシマヘト大奮発ニ奮発シタク茶ヲガ
ツイタ故寝タクモナシ不承不承ニサシク學課ヲシ
ラベテ十一時半寝ニ付ケコノ日ノ判決三十
三点ト知ルベシ

十月十日(木)

午前七時起き八時登校午後四時半帰宅休息ガク
ラ地回リ刻々大澤山巴に日暮ル余の勤勞多ク石
瓦シタル毎度ナカシ理解スル能ハス兄頼に夜席へ行
カスナト奮ツルカ余ハ固ク辞シテ七時頃村井十次郎氏
東訪ス氏ハ法科大學生ナリ法律ヲ専ラシ大ニ面白ク
八時頃那珂免尔来ルハ時半頃村井归ル那珂可ハ
明日運動會アリヨクウシ英氣ヲ養ハルモノ千里ヲ遠シセ
シ来レハ何ゾ珍味アリ付キ度シト云フ成程
尤モ千ナト兄ハ早速吞ミ込メテ牛肉ヲ食ヒ行
クベシ云フ余モ相番セズナト難有キ上意合キス
ルハ却テ失手シナト自分勝手ナリ理屈ヲ付ケ然
ラハイ伴ト下手ニ出テ本郷通リ平野屋ニ至
リ三人語ラシナガラ元気ヲツクヒタリ就中那珂
ハスカンビツノ折トテ倦クマデ大食シ明日ハ必ス
尋常ヲ得ント熱ヲ吹キタリ十時過キ同店ヲ出テ
那珂ニ分レテ兄ト共ニ归途ニ就キタルが見ハ何
カ買物(コレハ燻栗ヤキ)スレ内余ト行キ違ヒテ余
ハ只路ヲホツクトヨル路スガテ明見タル月
ヲ眺メテ有然タル折シモ小路ヨリ一人ノ少年
ツト現ル出テシカ同シ月ヲ眺メテ餘念ナク
表川町ノ方ヘ静カト歩ニ行ケリ余ハ心ナクテソ
バニ奇リ何物ノヤト月光ニスカシ見ル年ハ十五ヤ

三五カニハ斗リナルガ身丈ハ余ローサモ高
カラシ見ユ愛敬溢ル斗カ眼ハ月ニ映シテ一段ノ
優美ヲ添ヘ口元ノ尋常ナル鼻筋ノ通リタル眉毛ノ
濃クテ新月状ヨリハ鼻口直線ニ近キ而テ天晴レ
ノ美少年ナリ互ニハ何ヤリ徽章ナル巾着ヲ頂キ身ハ
ヨク似合ヒタル黒キ洋服ツツ足ハ長靴ヲ穿ケリ
余ハ明月ロクハ却テコノ美少年ノ姿ニ心ヲ奪ハル思ハ
ズ傍ニ進ミ寄リアツテ氣付キテ又遠サカレリ少年
ハ一向無頓着ニ悠ヤト歩ム景色ハ急用アリ
ナドアルモノトハ見ヘズ余ハ終ニ小声ニ詠シテ曰

情ヲ君ル白真弓、引きぞかへさぬ我が
愁ヲ、行衛定地ぬ行く水の、流きや
清き炭清水、深き思ひを……

去ノとき少年ハ急ニ立止マリテ余ノ方ヲジツト見
ツマツリ彼ノ眼志ハ余ヲハタト打テ余ヲシテ一
種ノ戰慄ヲ生ゼシメタリ少年ハ余ヲ月志ニカシ
見テト愛ヲキ声朗ラカナル内情ノ音ヲ食ミ
テリアナクハ伊東カンブハ……「エー?アナタハト
口斗アト思ヘバ彼ノ美少年ノ姿ハ消ヘテ余カ夢
ヲヌル心ノ夢ハ醒ラケル余ハナキ夢路ヲトルガ
如ク覺ヘ十時半頃ノ家ニヨルガ少年ノ面影多
目ニツキテ勉強ノ急モ出デズ打リクダラヌ空
想ニ馳セ入りテ無形ノ獨リ演劇ヲ興行シ

始ノリ木戸銭ハタ毎五分サア(1) 覽ルニ
評判評判ノ声ハイッホカ行キ過キテ今ハ
サ(ト)目撃タル事ノ声静カ: 旬コヘケル日寺
午後十一時二十分ナリ 今ノ判決三十点
余ハ今日 絲莖茹ノ雅名(俗名ノ又俗名ナ
レモ (-)ト(-)トヲ染スガ (+)トナル 玉里: ヲリフ)
ク白滝ト云フヲ知レリ又俗名ノ牛肉店ハ
一切立テ入ラザルニ決セリ 家ノ不潔ナルト
下セ卑ノ野卑猥褻ナルト無礼ナルトガ余ノ
癢ニカワルヲ以テナリ余ハ飲食店ノ俾ト相戯
ルナド云フ不見識ナルトハ大嫌ヒナリ余ハ卓
然トシテ立テ昂然トシテ屈セス余ノ思フ所
ニテ実行スルヲ無上ノ事トスルモノナリ可ク

十月十一日 (金)

午前十時五分起キ七時半登校 今日、午前
四時マテノ至ラ午午ニテ切上ケイ列ノ *nonsensical*
fellows 真水、山形、河合、三象傑ト共ニ永田町ニ西村
共ニ三君ノ邸ヲ訪ヒテ河州ヲ覽良郡四條殿ナルナ
楠公ノ墓碑ノ横造ヲ一見シテ先ツ同氏ノ邸ニ到リテ案内
ヲ乞ヘハ小登キ男取ノ次ニ出テ我等ヲ請ヒテ奥ノ向ニ導
キテ龍ノ聲ヲ響ク声(?)ト共ニ出立シテ良郡長 股野
氏ニテ一通リ挨拶終ルハ余等ノ為メニ墓碑ノ説明
ヲサレタリ又實況ヲ世間ノ衰狀、其他教通ノ書類ヲ示シ
且ツ小學校生徒カ墓碑ノ前ニテ舞スフアソビヲ建武ノ昔
ニ正成^ノ云々ト云フ軍歌トモ一ツ他ノ軍歌ヲ印刷
セシモノ及ビ小楠公ノ碑銘寫ヲ見贈リ且ツ茶果ヲ賜ヒ
走セリハ餘程ノ内奮発ト見ユ彼ノ墓碑ノ設計ハ
小學校生徒ノ横造ニカレルモハテ今度天變ニ供セ
ルヲ遠路ヲ厭ハズハ苦勞ニモ持テ来リシモノナカ
素コノ氣術上價直ルモハモアラス忠臣愛國ノ心ヲ
奮起スルノ力ナド、股野君ガ得意ニテヲ説明ケル
レド余等ハ只カ成ル程ト申ス迄ノコトヲ余リ心ニ
感心イテラス一舛股野ガ余ヲ物好キナカク股野
ハ田舎心ヲシテ茶心ヲ推スモノナリトカ免角悪ル
口ノ評ニ出タルハ氣ノ毒ナルコトナリ。夫レヨリ四人
ハ永田町、藏ノ間、三年町ヲ經テ學習院ニ至ル

路スガラ互ニ家屋、構造法ヲ批評シタルガ中々
余等モエヲキ⁷者⁺僅^ニハ一月間、名家ノ片ハシ^レキ
テ已ニ、斯ク名匠^ノ作^{タル}家屋^ノ是^レ非^レシ^テ導^ルル^ハ。
孝習院ハ元工部大學校ノ跡ニテ建物ハ中々養
義^ノ尽^シ就^中講堂ハ實ニ雄壯華美ナルガソレヨリ
モ亦一層美ナルモハ、全院生徒ノ容身^{ナリ}現ニ伊
國^ノラ^マニ^ル地下ニ起^シテ通^カシ^ルモ筆^ヲ捲^テ
歎息^セト思^フ斗^リナル義^ノ少年^ニ名^{アリ}(タル由^レコ
レハ義^ノ少年^ノ好^キ山下^ノ鑿^定ナル^ハ余^ハツ^責イ^任ス)
併^シ免^角孝習院ハ義^ノ少年^ノ向^ヒ屋^ナル^トハ^與足^ヒル
孝習院^ヲ去^リテ琴平社ニ至^リテ同^等講堂
ノ傍^ニ経^鹿鳴^館、日本^中テ^ル等^ヲ觀^察シ^テ批
評^シ下^レシ^フ、銀座^ニ通^リ出^テリ^最ヨリ先^キ山下^ハ
佛國^ノス^{ベル}オペラ、由^來ヲ話^シタルガ大^ニ余^ハ益^スル^ヲ
アリ^{タリ}、銀座^{ヨリ}日本^橋通^リヲ過^キ百世橋^ノ邊^ニテ
真水^ハ一人^ノ別^シテ家^ニ歸^リ殘^ル三人^ハ本^以通^リナル
江^知勝^ト云^フ牛肉^ニ入^リテ食^ハル^ト癒^シタリ^河
合^ハ途^中ニテ小町^表通^ニ三^會ヲ避^ケタルト云^フ、美人^ニ
人^ノ見^タト自^慢セリ余^ハ實^ハ一^義少年^ハ一^美人^トヲ
見^タハ^心中大^ニ満足^セリクダラス^故テ宿^ハ食事^ト
共^ニ殘^リ三人^ハ合^テ出^テ湯島天神社^ニ詣^ルニ
折^リテ祭^孔ノナ^レバ老^弱男^女貴^賤都^邑押^シ
合^ヒレ^ル合^フ雜^當中^ハ面^白カ^ス、總^テ社^内ヲ出^テ

河合、別レテ山下ト共ニ、歸路ニ乾ク、家ニ歸ルハ向
モハ山岡茂松入道 押シカケ来リウ頃ラテ先
ノ後茂松入道 歸リ(彼ハ余ニ微ク事ヲ巴ト
物理書ヲ借ル来シナリ) 一休ニシテ勉強ニトリカ
ツシハ九時ト頃ナリシ 午後十一時半 擬ニ乾クコ
ノ日刺レ夫五十五点トス

爰ニ一奇談アリ、實ニ極内々ノテ滅多ニハ云ヘナイガ
實ハ余カ十三歳ノ時父ト共ニ下徳田佐倉ニ住ヒタル
トアリ余カ家ハ借家ニテ家主ハ池田確藏ト云フモノ
ナリ確藏ニ五人ノ子アリ長子一即ニ男富次三番目
ト云フトモ、女如ハ四郎弟五ハ五郎ト云フ何レモ
余リ上等ニ生シ付キダハナク殊ニ父確藏ハ浮蕩者
ナル男ナリケルバ我子ノ教育ハ熱心セス 余カ
十四歳ノ時妻ヲ失ヒシ後ハ或ル家ノ後家トシテ
中トナリタルトテ世間ノ噂トクナリシ 娘ト云フハ余
コリ一歳サケ 經^ニ歳ハ十人並ハツブレニシテモ父
父ノ見習ヒテカ飛ヒ上リノ極上ニテ三^ツ飛ト南カ取ツ
幕シテアツタリ近所テモ父ノ種ハ只物ハハルマヒト
ノ評判アリ余ハコト於狀ト常ニ往来シタルカソノ頃
ハマダ^ニ銀鬼大将トナツテ竹馬ノ競争ヲシテ衆^ニシテ
居タ頃エハ世間ノトナドハケレモ知ラズ 只ダキヤツ
キヤト 驢^リ廻リタル文^ケニテマダ^ニ愛戀ト云フ優美
ナル情^ヲ慾ハナカクナリ (アトハ明日).

十月十二日 (土)

午前七時起き七時半登校十二時帰宅今日ハ
土曜日ナハ何トカ心地覺キテ勉強ト云フ意ハ
起ラス先ツ久々ニ故郷ナル父母ヲ訪入テ手紙ヲ認
メタルガ積ルヲ告シテ長々ニ父母モサコソ喜ビ
玉ハト推シ量レバ心嬉シキ限リナレ夫レロク
一寸勉強ノ真ルヲナレタルガ臆テ五時ニ
近フキ夕飯向テ認ルル時来リ五時過キ山岡
芥松ヲ訪ヒシカ不在ナリ由テ直ニ小石川ニ
レーマレ氏ヲ訪フニ嬉シキ在宅ナリ久々ニテ
面會シタルハ先ツ疎遠ノ口誼ヲ述ベ学校ノ事
子ナドヲ考テ終リニルーフク氏運筆史ヲ
購ヒ度ケルバトテ注文ヲ依頼シ又余カ
書籍ヲ尺シタル朝顔日記ヲ示シテ刪削ヲ
乞ヘリ七時半家ニ歸リ見ハ例ノ那珂勉第
来リテ居リタリコト昨日ノ運動會ニエカ名ヲ
アツシタルヲ自慢スル物メナルベシ迄話
一時間余ニシテ兄ハ何カ食ハント桑ヲ齧シ
余ノ意見ヲ問フ余ハ元素不賛成ノ方ナレト
那珂ノ手前アレハ已ク得ヌ免モ角モト
答ヘタリ余ハ實ハ已レ思フ所ヲ言ヒ已レ欲ス
ル所ヲ行フノ主義ナリカ今ヨリ主義ヲ辯
キタルハ定見ナキモハ本義ナレトコト考フル

大ニ然ラスレ字世ノ習俗ト云フ以上ハコノ位ナ
事ハ是非モナキ次第理ノ中ニ非アリ非ノ
中ニ理アリ父ハ子ノ爲ニ厚シ子ハ父ノ爲ニ
厚シトモ直キヲ中ニアルノ本文子トシテ
父ノ意ヲ言フヘナバ直キカ如クシテ實ハ曲レルナ
リ時ト場ヲトテ履ミズシテ直キ直行スルモノ
ハ義徒ニイスタ粗暴ナリ正明ニイスタ愚昧ナ
リコトヲ察シテ理非ヲ明ニ進退ヲ度
ヲ得バ真ニオ子ナリト云フベキナリ
斯ク辨護シ来ハ余ハ天晴シ高見ナルオ子ナリ
ト見ユル然レモ實際余ハ理非ヲ明ニ進退ヲ
度ヲ得ルヲ能ハス余ハ決シテ真ノオ子ト非ザル
ナリ若シ余ヲ目シテオ子トスル者アタハコレ未ダ余ニ
及バザルモノナリコレ余ニ籠絡スルモノ也
人間ハ尤モ品位ヲ重シザルベカラズ今義シ兩人
相對シテ議論スルトモ傍觀者ハ兩人ノ挙動
ヲ見テ必ズ兩人ノ批評スベシサレハ人生ノ極ニ
キハオノ言語ノ使ヒ様ナリ言決見長差ハ浮
薄ハ忽チ人ニ優レシオニハ客儀資格ナリ
客儀乱ルルハ忽チ人ニ疎ニセラルヨシオオ
智識ハ何程アリ云フモ以上ニツラズハ
ハ社會ノ信用ヲ得ル由ナクテ無用ノ人トナル必
シク而シテ客儀言行短カ云ヘハ品位ハ動

モスハ失ヒ易クモノナリ 養ヒ戦ハ競々 薄氷ヲ踏
ムカ女ヲ送ル 眞諦モ言ハカズレバ 負カケル
ニ此レハ決シテ之ヲ永遠ニ保ツテ能ハス
ト云フサレバ 油断セバ 急ク之ヲ失ヒテ 復ク恢復ス
ル能ハザルニ至ラン 而シテコレカ 媒介ヲナスモハ
多クハ 酒色ニ在リ 慎ム可シ 恐ルベシ 酒色
ト云フハ 色ハ酒ヨリ始マル人 或ハ酒ヲ好マス
シテ色ヲ好ムモノアリ 未ク酒ヲ好シテ色ヲ好マ
ザルモノハ アラサルナリ 命一一生ノ 真レニハ 實ニ
ソレ 酒ニアル哉

余等ハ 豚肉ト酒トヲ設ケテ 飲食シ 且ツテ
甘シタリ 余等カ 禁酒ノ身ヲ以テコノ 奉命アル
ハ 所謂 先キ論シタル 理非進退 (牛乳・熱語)
ノ 道理ニテ 充分ニ 明シ得可シ 信スレバ
余ハ 今夜ハ 酒ヲ飲ミ 極ニハナク (尤モ至テ
少レ許リ 酒ナレバ) 那珂カ 熱心ナル 語ヲモ至テ
冷淡ニ 聞キ流セリ 十時半 那珂ハ 物足ラヌ 景
色ニテヨル 那珂ハ 當時 実戸昌氏ノ 宅ニ同居シ
至テ 究屈ナル 生涯ヲ ナシ 居ルニハ 平常ノ 太平
樂ニモ似ズ 今夜ハ 散々ニ 愚疾ヲ ナラベ立テ
タリ 併シ 那珂ハ 已レ 不身持ヲヨリカル 境遇
ニ 隔リ 今デハ 心底ヨリ 信ヲ 尽ス 朋友モヨク
稀ニ ナラタル 際トシ 余等ヲ 柱トモ 杖トモ 頼ミ

＝思ヒ居ルコト故コノ点ヨリ著フレハ亦タ不相似ナル
誤ケテ一擧ノ酒ヲフルマヒ彼レヲ慰ムルモ
大ナル誤リニハナキ本氣ニ思ハルナリ(サトハ氣ノ弱ヒ).

余ハ他レノスヲモナケレバ午後十一時寢ニ就キ
夕コノ日判決四十一點

(奇蹟昨日ノ續キ)ハ明日ニ譲ル.

今日ハ農林學校ノ運動會アリカハ世間人ナリ
トカ云ヘハ定メテ大ヒニ周旋シタルナラシ併シ
心臓人並シラネバ自ラ運動ハセザルナラ
ント外ハスルトモ勝利ヲ得ンテハ覺束ナカルベシ
ト信ス

十月十三日 (日)

抑々今日ハ日曜日一週向中日曜日ハ只一
日アルニ(何曜日デ一週向中ニハ只一又トダ)
即チ停課、無キ日ハ今日一日ト申ス意味ナリ殊
今日ハ上天気ニ熱カス寒カス十月ノ天ト叫ビ
度キ好時節手足モ心モバクトシテ安閑ト
寝床上ニ仰臥シタルカセ時半過ル頃ヨ
ヤク起キ出テ停課ニリカラレセカ急外ヲ見
渡セハ実ニ又ト得難キ好天気ハ此ノ精神急ヤ
恍惚トシテ恰モ痴人ガ美人ニ逢ルカ如ク矢旋
ニ家ヲ飛び出シテ悠々ト大股ニ歩キ(ソノ癖足ハ極
ヤ短キ)ソノ駿河路ニ立テ寄リシカ叔父モ侍供
モ不在ナリ因テ叔母ト數十句同會話シ去ツテ三
嶺町ト米田氏ヲ外ニヨリ訪ヒテ飯田町ニ
長老部源次郎ヲ言ヒテ家ニ弟小田切モ集會
シテ少シ賑カキ(峯沼宗順ト云フモノモ来リ居ル)
正午家ニ歸リテ見ハ珍器アリコレハ江原銅ト云フ
男ニア年ハ余ヲ二歳長シタルカソノ性閑治ニシテ
才氣瀟々溢ル斗リ加之辨舌鋭利、ソノ胆
力極メテ大ナリ惜シハ學術不完全ニモ筆
力尤モ輕捷ニシテ能ク時事ヲ痛論ス慷慨
悲憤スルカ思ハバ嬉々トシテ絲竹ノ向ニ舞飲
シ放縱無頼ナルカ如シ思ハバ堂々トシテ天下



大根

正理の説ク何レハ餘程毛色変リタル奇才
 ナリ余ハ深ク彼ノ奇才ニ感シ彼レ亦深ク余ヲ
 信スルヲ以テ相逢フ毎ニ胸襟ヲ開ヒテ快談
 痛飲スルヲ例トセリ今日モ相伴ヒテ散步セル
 企テ折柄偶々岡村垂香先生來訪セリヨキ
 仕合ヒリトテ余ハ家兄ト西窓ト共ニ家ヲ出テ遠
 分ヨリ園子坂ヲ經テ谷中日暮里ノ村ヲ散
 歩セル道ニカク諧謔交ヒテ出テ疲レテ忘レ斗
 ナリ今日ハ日曜日事ハハ貴賤都鄙凡テ奇
 雜ヲ飾リテ散歩セルモ甚ク多ク中ニモ令嬢公達
 ノ優美ナル姿ハ心ナキ余等(シラキルヲ勿レ)マデ
 ヲ感動セシメタリ。直鐵山ヲ過キテ西ケ原村ニ
 コハ平坦ナル田打ヲツバキ胡蘿蔔ヲ甚クシク
 培養セリコノ胡蘿蔔ノ代金ニシテモ一萬円以上ハ
 上ルベシト余カ計算ハ痛ク江原ノ心算ヲ衝キタ
 リ見ヘ江原ハ満腔ノ膈ヲ翻シテ大ニ興ヒ笑ヒ
 大根田モ中々馬鹿ハナラヌト云ヒシヨリ馬鹿ハナラヌ
 ト云フヲ簡單ニ大根田ト唱フルヲシタリ。飛鳥
 山ニ來テ見ハ今日ハ諫早大親睦會ヲコノ山上ニ
 催ス由ニテ大袈裟ニ表札ヲ立テタル來會者ハ
 若シニ三十名モアリタルニテ廣キ山上ノテナルハ
 ドコノ親睦會ガアルカラ一向ニ分ラヌ位ニナリソ
 リ王子村ヲ散步シ終ニ滝野川村ニ至リテ終エ

葉の實セリ時節ハ少し早ルニ日曜ト云ヒ好天気
ノトナリハ菜遊ノ人々中々多ク殊ニ一木目立
タレハ頗ル可憐ノ少女ニ名連ニテ紅葉狩リ
来テ在リシハ多情多ナル江原ハ早クモ彼ニ看
目シ彼等ガ傍ニ陣ヲ取リテ尻ヲ落ケ付ケ
タリ林間酒ヲ暖メラ紅葉ヲ焼クト云フ文句ハ
斯ルハ折ニヤアラントバロハ風流心(タカ何
ダカ)ヲ起シテ酒ヲ命シタルカ看ハ何モナク只タ
三片ノキヌカフキト云フ芋ト生卵ノトナリイ併シ
山海ノ珍味ヲ連テ俗間ノ割烹處ニ食ムヨリハ
寧ロ音無シ河畔ノ小亭上ニ楓葉ヲ賣シテ食
ムガ餘程面白カシトハ頁ヲ措ニニルカシテ
実ア祭ノ内囃シタリ四人ハ程コト微醉シタレバ
コト立テ去リ再ヒ飛島山ニ出テ王子村ニ至リテ
淡車ニ乗セシ思ヒシカ時トモ早キヌステアル牛
肉店ニ入り又々酒肉ヲ食ホリ言論ヲ縦ニ
セリ七時十四分ノ淡車ニ乗テ上野ニ着シル
ヨリ廣小路通ヲ過キ湯島天神社内ヲ通過
セシ燈シ女子等ハ頻ニ余等ヲ呼ビカケタリ咄
々怪事モアルモノデ(イナニ野暮ラレフヲ云フイタコ)
ツレヨリ思ヒ思ヒニカ離テ各々家ニ歸リタルカ
見ハ中途ヨリドロント消ヘテ行キ方次ララス毎度
ナガラウ咄々怪事モアルモノデ(コレサアニマノ不詳ダヨ)

余ハ家ニリ帰ルバ巳ニ十時近ヅケ鳴ル半令
日ハ何モセズニ養シテ然レ今日ハ日曜ノナレバ
申シ訳ケハ立ツトハ申セザモ實ハ心ニ快カラス
サツテ今更カヘラヌヲセテ寝ルマデ一奮然ト
ハ思ヒナガラ角ニ心進マズソノ答ヲ今日ハ
實ニ愉快ノ愉快ヲ尽シテ面白キ論ヲ終テ語
ヲナセテアゲテナレバ何トテ七面倒ナル序理ノ
手ニ付クベキヤ

一休ガ全体、全体ガ一休、簡單ニ云フバ終ニテ
余等學生ノ境涯ト申ス。只々熱心ニ努力
強シカハスレバ彼目ハススト申スモノナリ何モ
日曜ダカラ酒ハ飲ムベシ遊ブベレト云フ
理論ハナキフナリサレバ世ハ日曜ニモ早朝ヨ
リ讀書ニトリカハツテ深更マテ勉強スルモノナ
ル等ハ或人ハ馬鹿ダト云フヤモ知レシ共余ハ
中々感心ナモノト思ヘリ（但シ例外モアルナ
レバドレモコレトハ申サズ）併シテ余ヲシテスレバ
余ハ進モ斯ク如ク行ヒウガ能ハズヨレトガレト
ト答スレモ周囲ノ事情必ズヤコレヲ拒ムベシ余
ハ只多ク序ビ多ク遊ブラ女子ノナリ余ヲ知
ルモノハ獨リ余ヲ余（余）今日一事ダモ為ケリ
レテ深ク答ノガルモノナリ十一時半寝就クコ
日判決三十六点トス

十月十四日(月)

午前六時三十分起七時三十分登校午後六時
試験受ける

身長 一丈五尺六寸五分

身長 五尺一寸三分三厘

脚量 三・五五リットル

胸 { 充盈 二尺六寸一分
平常 二尺五寸三分
空虚 二尺四寸四分

腕周 { 上臂 八寸六分 握 (右 三十八キロ
下々 八寸三分 力 (左 三十一キロ
上々 八寸三分 力量 { 10 眼 = N.
下々 八寸

午の試験は十三問あり、自問の大きき、
且セリ三時家へ帰る中、田切、長谷部
来り、田切の持来目的、就キキリ考フ
ル所アルモ、如シ巴・シテ三人归ル夕飯、
中山表来り、一時、後归ル余ハ洗湯、
キヨリテ直々、散学、出カケ六時家へ归ル(ヒ
ルヲ飲ミタリキ)夫レリ大ニ学課ヲ研究シ午
後十一時四十分、寝、就カコノ日判決五
六点トス

十月十五日 (火)

午前五時三十分起キ七時半登校三時
半归宅スコ日正午前ヨリ雨降リ出し寒
氣強ク陰氣深クテ鬱陶シキ天氣ナレバ
勉強スル勇氣ナクツマラ又画ヲカキナドレテ日没ニ
至ルソレヨリ兄ト世間往シラ女台ソタシカ終ニ
陰氣ヲ拂ハルトテ共ニ牛肉左ニ到リ酒肉ヲ
食ボリ九時過キ家ニ归リ大ニ元氣ヲ増シル
ガ矢張り勉強ハ面自カラス又ゾロクダラス
画ナドヲ書キ獨リテ樂シミツリ十時ヨリ一寸
學得ラシラベタル女ルキ休ラナシ十一時最
ニ就クコノ日判決三十点。少シ今日ハ論
スルアラセ面倒ユヘ。明日ニユグル

十月十六日 (水)

午前六時四十分起キ八時登校 四時過キ
帰宅 鬚ツツ夫レリ駿河台ニ赴キ華ノミガキ
夕余ノ斯クメカレ立ツルハ明日ノ番町学校
同窓會ニ臨マン片見著シカラヌカノ用意ナ
殊ニ令嬢達ニ出席スルハ猶々更ノコトニツト
野心ガアル様ナレド決シテ然ラズ (誰モ何
トモエハス言ハズスル所ガナト怪シト) セ時
過キ家ニ歸リケシク遊學ヲ不所哉トセシカ中
々大ク散ラテ手ニ合ハズエーマヨ遊ンデシ
マヘト大ニ奮発シ獨リ家ヲ飛ビ出シ寒キ
夜風ヲトシテ豊田家ニ押入リ飽コフテ
飲ニ食ヒシ微醉ノ体ニテ家ニヨソキヨリ
シハ十時半頃ナリモ一勉強モクソトナリ終
ニ十一時後ニ就クコノ日判決ニ十六点 兄
ハ今夜外泊セリクドイ様ダガ咄々怪事モ
アルモノデ。

十月十七日 (木)

午前六時三十分起キ七時半過カヒ頃家ヲ出
テ緩マト歩イツ、向島ハ州園ヘト進ミタリ
九時南會トコトナルハ急カモ及ハズト思ヒ四方
ノ風景ヲ目眺メ、向島ノ堤ヲ過キニ里ニ近キ
路ヲ全ク歩行シテ(別ニ自慢モナルモイ)九
時三分過キハ園ニ着キ見ハ幹事兩名ノミ
来リ居キ一名モ来會者ハアラザリケリ少頃ク待
ツ程ニ一人来リニ人來リテ果ハ席ニ溢ルイ斗リ
何レモ相應ナル装ヒナルカハ聲ムシクシテ生
ヤシタル學若風ノ男アリコレ大塚院學生木村
駿吉君ナリ又一人年若キ貴公子アリ言テ我英カニ
ラ一目ソオ子ナルヲ知ルコレ本多親雄氏令
息川上春熊君ナリスラリト背高キ若紳士ハ加
藤弘之君ノ令息晴茂君シテ客自突岨奇異
ナルハ野ロー太郎君ナリ婦人ハ萬里小路久子、
壬生麻子、目黒定子、室田某子、四名ノミナリ
シハ尤モ遠小感ナリ余等ハ過半不識人ナレハ
名刺ヲ交換シテ姓名ヲ通シタル中ニ以前ハ
最モ親カシ网友モアリ互ニ往事ヲ語リテ興シ
笑ヒタリ巴ニシテ小學校長丹所啓行君來リ
正午過キ昼飯ヲ認ム幹事木駿村氏(演道)
及野ロー太郎君ノ演説アリ食事終リテ酒酌

4コト生麻子嬢ノ寄附ニカル福引アリテ大
興ヲ添ヘタツテ山ノ小太郎氏ト共ニ庭
ノ散歩シタリコノ庭ハ隅田川ノ水ヲ引テ池ヲ
造リ山ヲ築キ極メテ湖(洞)ナリ山口余ニ前
テ曰ク君ノ庭ニ就テ何カ考フルナ余答
テ曰クコノ庭湖(洞)ニ過キテ高低ニ乏シ余ハセ
ラ評シテ出シト云ハレト山口曰ク然リコノ庭
ノ拙ナル所以ハ高低ニ乏シキアリト最モ亦タ岩石
ニ乏シキト水面ノ多キニ過ラシ由レリト余深クソ
言ニ服スソコリテ空ヲ轉シテ美術ニ移リ殊ニ
美術及文學ニ移ル山口ハ當時大學ニ於テ
教育学ヲ専修シ哲學美術等ノ大要ヲ知
ルツテ大ニ余ヲ益スル可クアリテ空ヲ興イヨ
深クシテ殊ニ一時間ヲ費セリ園中ノ散歩シテ
内前ニ至リ見ルニ主ヲ待ツ馬車一輛乗馬三頭
人力車十數輛アリ中々盛ナル事共ナリ席上ハトランプ
ドミノ、花アソビ等ハ遊戯アリテ至テ樂シキ有様ナ
リヤガー一人ヲ二人來リ席上ハ追々寂寥トナリ午後
四時五十分同園ヲ出テ山口小太郎氏ト共ニ
別途ニ就テ山口小太郎ト申ス余、竹馬ノ友ニテ
同氏ハ明治十二年舊阿波校ヲ退キ十三年ノ春
マツ済生學會ニ入り次テ訓業學會、明治十三年
十四年外國語學校ニ入り十七年同校ヲ卒業シ

山口縣中(授) 教員ニ俸ハレ 同地ニアルニ
年 東学ニヨリテ 一高ガ 中學校 教員トナリ 傍ヲ
大略ニ 通學ニテ 教育學ヲ修ム (特 殆生ナリ) 人ト
ナリ 謹直 勉強 今年ニ 十一年ノ 青年ナレバ コク
事ト 世事トニ 通ジ 去毎妻ヲ 娶リ 今一子アリ
(ナドハ 餘計ナ セン索ナラズヤ) ト云フ
今日ハ 九一日ヲ 費シタル 亦ソレ 丈ケノ 愉快ヲ
尽シタル 大ニ 恨ムニ 足ラズト 思ヘリ 且ツ又 同業ヲ
馬ノ友ガ 四散シテ 各々ツノ 好ム所ニ 馳セ 從テ
各々種ノ 人トナルノ 實際ヲ 目撃シテ 大ニ 余情
所アリ 加之 交際上 亦大ニ 得ル所モ アラバ 余
ハ決シテ 一日子ヲ 費シタルヲ 惜マザルナリ
午後六時半 帰宅シ 一休息ス 七時半 頃ヨリ
學課ニ トリカハリシガ 色々ト ツキ廻セシ 故サ
セル 交カナレ 午後十一時 鐘ニ 就ク コノ日
判決 五十点トス

十月十八日(金)

午為七時起キ七時半登接 今日ハ午後四時迄
授業アルラ一時半ニテキリ上ケ例ノ同病相
憐ニ同病相成ル眞水、山下、河合ノ三人ト共ニ上
野ヘト散歩セリコト眞水ト云フ男ハ著實温厚ニシテ
頗ル事物ヲ精密ニ觀察スルノ性アリ繪画ニ尤モ
巧ナルバ送家等ヲ修ムルニ適セル人物ナリ昔々クハ
餘ヲ尻ツタレ過ギルトノ判評恐ラハ焼芋ガ好物ト
見ヘルトハ飛ニガ當推量ナリ山下ノ云フ男ハ潤治ニシテ
性々馳洒落ヲ云フ此レコト好クコト猶モ彼レガ少年
ノ好カカ^カ (鹿兒島縣文ヶ) ソノ左キナルニハイ以合
ハヌコソ可笑シ。河合ト申スハ兩頬ニ長キ鬚ト蓄ヘ
タルカ餘程陽氣ナク性ニテ常ニ何カワカヌモノロ見
ヒ獨リ浮レ狂フコト人甚ク奇麗好キコト事物ヲトリ
扱フテ至テ丁重ナリ又小兒ヲ愛スルニ甚シク從テ羨シ
年々好ク山下ニ考ラス^{考ラス}今日上野ヲ散步シタハガ
全可ハ小學校ノ小兒等ノ以テ殆ド滿タレタル位
生徒ハ男兒ハ多ク洋裝ニテ女兒ハ多ク和裝ナガ今
日ハ晴レト着飾リタルソノ羨ニヤソノ可愛サ余等モ思
ハズ見トクニ併シ小兒ハ一般ニ愛ラシキモノニテ小兒等
ガ笑ヒドヨソキテ遊ブヲ見テ怒ルモノハ先ブ一通リ人同
シハナキナリ況ンヤ余等ハ高等ノ人同(威張ルズナリ)
ト愛ト云フ高尚ノ情モ充ルアルモノ共ナルバ爭テ小兒

ヲ見、愛情の起リ、ラン、美女、美少年、見テ、惚、タル
モノ、強ク、多、淫ナル、非、強ク、野、心、アル、非、ズ
見テ、見、振、リ、ラ、ナ、レ、横、目、ヲ、ビ、ロ、ト、使、フ、モ、ハ、多、淫、者
多、シ、ト、知、ル、ベ、シ

余等ハ、小、学、校、教、育、品、展、覽、會、ヲ、一、見、セ、リ、余、等、ノ、目、ヲ
見、イ、何、モ、面、白、キ、モ、ハ、ナ、ル、ト、小、学、校、課、程、ノ、度
ヲ、知、リ、且、テ、教、育、方、法、ヲ、知、ル、ヲ、得、ル、ノ、利、益、ヲ
出、品、ノ、物、缺、ハ、小、学、校、建、築、圖、案、針、線、造、各、種
統、計、表、生徒、製、作、品、生徒、ノ、同、シ、カ、繪、画、地
圖、教、科、書、生徒、作、文、教、科、用、器、具、女、生、徒
裁、縫、品、等、ヲ、シ、放、生、徒、ノ、ナ、キ、甚、ダ、幼、年、ニ、テ、巧、ナル、裁
縫、ヲ、ナ、シ、タル、モ、ア、ル、驚、ケ、テ、又、一、角、今、日、ノ、小、学、ハ、中、々
大、根、畑、ト、同、様、馬、鹿、ハ、ナ、ラ、ヌ、モ、ニ、テ、日、本、人、ノ、生、得
器、用、モ、多、シ、云、フ、ノ、實、ナル、ヲ、發、明、セ、リ、日、途、湯、島
天、神、社、内、梅、月、ト、云、フ、小、サ、キ、シ、ル、コ、屋、ニ、入、リ、テ、菓子
シ、ル、コ、ノ、食、ヒ、四、時、半、家、ニ、歸、ル、兄、ハ、今、夜、吹、越、キ、亭
ヘ、行、カ、ヌ、ト、勸、メ、タル、ト、固、ク、辭、シ、テ、勉強、ニ、ト、リ、カ、レ、リ
サ、ク、頃、ク、テ、田、中、中、山、兩、氏、來、リ、テ、遊、シ、凡、リ、二、時、半
許、リ、九、時、七、分、兩、人、歸、ル、夫、レ、ヨ、リ、教、育、ヲ、研、究、セ、ル
ガ、六、ヶ、敷、シ、テ、解、ス、ル、能、ハ、ヌ、大、キ、苦、悶、シ、タ、リ、午
後、十、一、時、三、十分、額、ニ、就、ク、コ、ノ、日、判、決、四、十、四
点、ト、ス

コノ日大隈大臣来島恒喜ノ為ニ租界セラル

十月十九日(土)

午前五時起キ八時登校正午帰宅し夫レヨ
勉強ヤル思ヒカ日知日憂カテ心地ヨキコト
堪ヘ難ク思ハズ家ニ飛ビ出テ先ツ岡村龍
彦ヲ訪フ先生折ツレ机ニ向ヒテ顔真 郷カチ跡
ヲ習ヒテ餘念ナレコノ男中々悠マトシクモノナク
龍ヲサレノ籠絡ヲ終リ余ハ岡村ニ漫歩ヲ
勸メ共ニ先ツ上野公園ニ至リテ見ル今日モナ
学校ノ見女等隊ヲナシテ往來スソノ可愛キフ堪
ラヘラズ余等ハコノ見隊ニ逢ハントテアテコケテ尋
ナアルキタリコノ見女等ノ中ニハ貴公子、令嬢モ在リ
多ク衣裳ハ勿論人尼優美ニテ管秀オノ身替
リハ受信ヒナクソーカト思ヘバ山家育ケノワンパク
者モ沢山アリ州列レムベキハ教員先生ヲテ大キナ
ヲシテ調子外レタ大音アゲ“右々々右”トカ“左右、左右”
トカ叫ヒツテ得意然ルモ見受ケタ^テ茶等ハ浅草
ヲ経テ向島ニ至リ見ル今日ハ第一高専中学校ノ
ボート競漕賽アリ併シ存外ニ林ニツテ少シモ威
勢ナシ余等ハナホ堤ノ上ヲ漫歩シタリシガ余ハ
今朝ノ新聞ニカヘリロ天キ花ハフヲ見タレバ
イカチコシヲ撰ラレトテ堤上ノ桜ニ注目シツテ
行ヤドモ行ケドモ花ハナレ終ニハ州園ノ也マテ
来リシ片余ハ思ヒ付キシ様ニ岡村ヲ勸コラ國中

入り見ルニ果シテカヘツロアキノ桃数株アリ
余等ハ竊カニ花多キ枝ヲ折リテ襟ニサシテ同
園ヲ出テリヨ途ニ向ヒタルガ往來ノ人々●余
等カ襟ヲ注目スルモノ多シヤ一桃タナ
ト小声ニモツハ高ギ中學ノ生徒ニテ「アア桃ガ
ト叫ブハ目サトキ小児ナリ長命寺ノ境内ニ
テ一休息シ櫻餅ヲカフ余ハ今日ホド櫻
餅ガ甘イと思ヒ日ハナカレ丈シヨリ夕ケナリノ
渡リ渡リ再ヒ津草ニ出テ上野ヲ切り通シ
テ經テ龍岡町ニ来リハニテ岡籠ニ別レ
家ニリヨクハ丁度六時五六分前ナリシ
食事ノ終ヒ暫時休息シイザ勉強ニツカ
ラントセシニ兄ハ余ヲ勸メテ夜席ニヘ行ク
ベシ云フ度カノ中勸メヲ強ク拒ムモ失礼ナリ
殊ニ今日ハ土曜日ニモアレバ終ニ同意シ午後
六時三十分家ヲ出テ吹キヌキ亭ヘ赴キタリ
岡五郎ノ人形使ヒ綾瀬大夫ノ浄瑠璃ニテ中
々面白カリシ仲實ニ面白ケレバシ浮世ノ甚
ク限リ忘レタリ凡テ物事ハ之ヲ聞クヨリモコレヲ
見ル方ガ人心ヲ感ゼシムルモノナリ不実全ナシ
人形芝居デスガ義大夫ノ聞クヨリハ小昔カ
寫シマシテ見シヤ (コレハニ重テ恐レ入リマシ)
實際本間ノ世ノ中ニ斯レノキ (何ヨク)

事実カ出来シ身自ラコレニ臨マバツノ感外青ハ何
程ナラント餘計ナコトマテ心胃已セリ十時頃
夜席ヲ終リ帰途トアル怪シキ奥マリツル小
料理店ニ入りテ酒肴ヲ食ホツ兄ト共ニ色
々ヲ強セリコレハ小見論ニテ兄ハ經驗論
余ハ想像論ヲ主張セリ互ニ剛情家ル
バ非ラ理ニ、理ラ非ニモマケカチズ月勝
敗ハ先ツ当分ニ預ルサスヘシ家に歸レバ
十二時ニ近シ由テ已ク得ニ寝ニ就
ク畜生明日ハ一匁強ク見セリ今
日ノ判決三十点ナリ

十月二十日(日)

午前七時起き起キ八時過ぎヨリ静學ヲ研
究セシカ前年シ得ズウカト正午マデナマ
モナク費シタリ走レヨリ家ヲ出テト岨々
即チテヒ一時間午ヲ控ラ先シ居タリ
至リテ見ル御供ハ不在ナリ休息スル
殆ト一時居ルニテ家ニ歸リイテ研究スル
内精神疲レテ睡氣ヲ催フニ甚ヘ難シ
睡ルモナク走レキルトモナクウトト空想ヲ
画キ始メテイテ空想ヲ運フニ止マザリシガ
フト心ブキテ見ハ日暮レタリ食後気分ヨク
ラザレバ田中苗木即チ訪フ中山モ来リ合
セテ控ラ先一時ヲ食テ家ニ歸レバ父ヨリ書
状来リ由テ返同ヲ認メテ大ニ愕
費シ再ヒ静學トリカレリ非常ニ脳ヲシホ
リテ研究シタリ大ニ得ル所ナシ即チ茶ヲ
喫シテ睡魔ヲ拂ヒ奮発シテナホ研究スル
若干時午後十一時三十分迄就クコノ
日判決六十八点今マデノマデハ今日カ
最高点ナリ。

十月二十一日(月)

午前七时起キ七時半登校四時リヨ
夫の學課ニトリカレリ食後少シ散歩
シ又々學課ノ研究ス八時御供昇陽乘
余御供ノ作文及英語ノ教ヘタリ十
時四十分御供ヨル余ノ再々學課スレ
ラベ十二時寢就コノ日判決五十点

十月二十一日(火)

午前六時半起キ七時半登校コノ日
如何ナル理由ニテ頻リ頭痛ヲ覺ユ試
ニ脈ヲ按スニ脈博百ニ近シ余大驚キ
帰宅後直ニ寢乾ク悪寒邪熱ノ為
ニ大ニ苦シタリ寢中ニ美術ノ研究及ヒ
石ヲ積ム方法ナドヲ夢ヲ見タリ故
郷ニカヘラ父母ニ共ニ食事スルヲ夢シタリコノ
日判決十點

十月十三日 (水)

今日モ寒寒邪熱甚ク脈搏ハ矢張リ九十以上
上ナリ熱ハ三十八度五。位ナルベシ思ハル
午移前登技シテ講義ヲ聞キタルカ頭痛甚ク
シテサレモ理解スル能ハス 然冬ニ午後ノ課業
ヲ休シテ家ニヨリ寢ニ付カトスル中田君、長谷部
来リ次ヲ中條精一郎来リ中條ハ半沢人ニテ余ハ
嘗テ同氏ノ家ニ寄留タルアリコ人性温順ナリ實ニ
温順ナル胆カキハ借ルベシ今年ノ學年試問氣
ハ教養あり。落オセシテ大落胆ノ様子ナル故
余ハ之ヲ慰メタリ凡ソニ時ヲ行キテ中條
ヨリ余ハ直ニ寢ニ付キシカ今日ハ頭痛邪熱モ
モ烈クソト上俄然トシテ候頭ツタルヲ癡シ大
甚シタル上昨夕ヨリ至テ食ヲ減シタルハ腹中空
虚ニシテ氣力ナク兄カ、腸カタルニナルヲモ知ラズ
ト感シタルニ一層オゲ氣付キテ弱クナリ日暮頃
江原鋼来リ次ヲ中山茂彦来リ由テ病苦ヲ扶
ケテサレリテ居ルセリバタクシテ兩人ヨル余ハ
スナトノ寢入ヲテ翌日、曉ニ及ベリコノ日判
決十点

十月二十四日 (木)

今朝目が赤見れハ気分大ニ宜シ脈搏ハ九十前後
熱温ハ三十七度五. 位ト覺ユ朝飯モ輕ク一
膳ヲ食フ氣カク得タルハホヒヨロヒヨロシテ足元
定マズ寛束ナクモ登校セリ (昨日ノ模様ハ三四
日ハダツト思ヘリ) 十一時大學病院ニ至リテ診察ヲ
乞ヘリ 午後ノ課業モトボコリ無クスマレ寄イリヨル
コトハ脈搏ハ八十ニ減リ追々快氣ニ向フモハ如シ
只シ頭ノ下(スル)ハ多ク免レストス蓋シ余カ今四
ノ病ハ風邪ノ一種類ト急激ナルノ候頭カタルト
通ジノ澁帯ヨリ起リシモノナラント云フサモアルベシ
或人ハ余ガ病アツト聞キツレハ大酒セル故ナラント云
フ或人ハツレハ余リ勉強セルナラント云フ (コレハ眞正
ノ意ナキ Ironyナリ知ラズ) イブレモ大ナル
鑒定違ヒナリ (併シコノ病ガ *eris* ノ口実穴賢コ)
少シク教壇ヲ研究シテ十時半寢ニ就クコノ
日判決ニ至ル. 今夜ハ何故ナシキリニ
脳裡ニ空想ヲ画キ出し忽チニシテ京・アルカ
ト思ヘハ又忽チニシテ即チアリ 政ニ米ニ天上ニ
地下ニ過去, 現在, 未来ヲ一時ニ見通セリ
精シク書ケバ天機ヲ漏ラスノ恐レアレハ之ヲ
累ス

十月二十五日 (金)

今朝ハ胸搏七十二減シ即チ通常ノ赴
ニナリタルナリ然レモ頭痛ハナキケレバ心地
モ宜シカラス八時起き八時半登校五時
マテ在校夫レヨリ帰宅晩飯向後洗湯
赴キ十日間積ル垢ヲ流シ家ニリヨレバ田
中苗太郎来リツアリ如何ナル都合ナリト語テ
ハ六年^前前^夕肩上シアル羨カ年ナリ頃ノ昔シ
テモ移リ當時テ在學校ノ景況 諸學校學
課ノ批評教員ノ褒貶 同輩生徒ノ優劣ナ
リ合ヒテツキナキ睦言ノ興ヲ添ヘントテ我
等ハ例ノ豊田屋ニ至リウレノ酒ト肉トヲ食セ
リ隣坐敷ニ人ノ書生来リ居リレガ我等ノ
中一人ハ他ノモノニ何か物語ヲスル様ナリヨク
聞ケバソノ言ハ醫學大學々生某カ去ル女生
徒ニ志慕レ或ル下宿屋ノ家々ニ十円ノ金ヲ贈テ
媒ケテ妻賴セ^ル一方ヨリ又或ル浮気娘ノ或ル
書生ニ志慕レ同シキ五円ノ金ヲ贈テソノ家ニ媒
ケテ妻賴セ^ル家々ハ十五円ヲ得テ大ニ喜ビ彼ノ
醫學大學々生ト浮気娘トヲ暗室ニ密會セシメ
リト云フ一條ナリ物語ノ中可憐ニモ醫學大學ノ
書生ト云フ語ヲ用エテ十數回ソノ毎ニ田中ハク
ト笑フ向フハ一向氣ノ付カヌ体本氣ナリテ講釋

スレバ現アスカレテ聞テイル体何レウラヌ馬鹿者
ト見ユルトハ餘リ過言ヲナカイヤ早コレハ失敬
ママ併レソ言ハ俠客傳ヨリ竊ニ取テ下手
趣向ナルド下宿屋ノ家々ガ不埒ハ随分アツターナ
コト浮氣又良ハ勿論、(大樽生) 医料ノ中ニソシテ
人モアローカハ知ラズド何モ医料医料トイカメシク
云ヒ立ツルニ及ブマイ。(コレガ同病相憐ト申ス
レルレ斗リデ) 十時家ニヨリ見レバ頭痛モ
殆ト全ク去リ氣カモ平常ニ異ナラズ今ハ
天晴シ、壯健ノ男子トナレリ丈レダカラ云
ハヌコトカ肉ヲ食フベシ酒ハ(・) オット
皆マデ宜フナ。

午後十一時發ニ乾クコノ日判決二十点

十月二十七日(土)

午前八時カレ前起キ列今日ハ休ミナレモ
後ラトリカハサレ若シ正午マテ學校ニ暮セリ即
ち現見家光料小田切ト来訪レツハアリ次ラ宛
島幹モ来訪セリ家兄ト四人遊ヒ家出ワ迄ツ
後ツツ(四人トモ)大塚運船亭ハ曉ニテ運船
亭モ例年ノ通り中々盛ニテ明窓取テモ出アツ
貴歌仲士陸頭トテ来訪モ暫ク談ラス(運船
モ色々アリ見物スル凡クニ時ヨリ午ノ小田切モ津
草ノ用ヲアツ云フ家光ト共ニ行クベシテ余ニモ
スノツツ依テ同意シ三人上野ノ鉄道馬車ニテ
浅草ニ赴キケレシ公園内ノ散歩シビール飲ム
入リテビールト稱ス食ヒ交レヨリ松田ヘ上ツテ
カレノ酒ノ命ヲ請フ遊ヲセリ日暮同店ヲ立リ出
テ再ヒ公園内ノ散歩シテビールヲ飲ミタツ
夫レノ向島ヘ行ケトテ我妻橋ノ上ニ至リ三人
バスニテイタダラナドセリ勢ヲテ余等ハ疲シヨ催
フレ向島ヘ行ク氣力ナシ因テ帰宅ニ決シ
上野マテ乗車ヲ飛ビセ夫レヨリ湯島天竺社内
ナル奥長ト云フ料理店ニ上リテ又々酒ヲ飲ミ
カレノ酒ノ命ヲ請フ遊ヲセリ小田切ニ分シ家光ト共ニ浅
草所ヘ帰リ見ル家兄居ラス因テオト日記ヲ
後シクラベテ畢シニ船ヲ獲テ就ク同ノ所ニ

東見セ江原領司ト共ニ御所ニテリヨリ来リサケキ
新庵ニ四人ヲ充ラセラベタリコノ日判決十二
点トス

十四=十七日 (日)

午前十時二十分起ク江原ニカキ 坂ノ
起テテウラ先トナル余、今日モ是レハ遊遊ニバ
ト兼テノ考ヘツルガ末案、おソ全ノ算額トテ
残念ナリ一ツ廢タ台ハオト共ニ行キ余、又テ
下旅ニリヨシ正午アリ見ト江原ト余、字ノ出テ
是ノ園子坂ヘ行キ形ノヲ見タリ山中湯松、例ノ
豚ハ恐入リシモナリ夫レヲ又々共々ニテ道館山
ノ行キ茶店ニ憩ヒカキ梯ヲ下物、酒ヲ飲シ後車ノ
通行スルハ中ニハ愉快ナリソヨク
谷中至リテ墓地ニ巡覽シ根岸ニ下リテ林ノ間
野屋ニ入リゾーヲ食フ夫レヲ上野公園ノ漫
歩シリ途ニ料理店ニ入り三人快哉
痛飲ス江原ハ一身履履ヲ授ケハカ同ノ
實ノ辛酉安ハ實ニ思ヒラサル ~~橋~~ 或ハキ
ハ虚飾人ヲ騙シ或ハカ虚鳴人ヲ威シ或シ
片ハ巧辨人ヲ迷ハシ或ハカ腕力人ヲ搏ス
遊ハキ或ハ餓湯迫リテ殆ト食ヲ乞フ至リ
トモハ似ルキ辛万苦ノ中ニ自治ノ道ヲ立テ終ニ
挫折スシテ今日ニ保殘シ来ハ中々勇氣ノ依
力上下ノ情通スル亦偶然ニハアラザレナク
日暮後同底ヲ出テ江原ト別レテ勿
途ニ就、途中見ト共ニ又豊田邑ニ入リ

大ニ飲食ス午¹⁰ 興¹ 來¹ 酒¹ 用
キタル 後悔スレバ及¹ 併¹ 大¹ 醉¹ 至¹ サル
余ガ心中一物¹ アルバナリ 家¹ 廻¹ 文¹ シブツ
ハ大声¹ 唱歌¹ ウタヒ 共¹ 謡¹ 曲¹ 唱¹
フ午後十一時¹ 寤¹ コノ日¹ 判決¹ 十五
点トス

十月二十八日(月)

午前五時三十分起キ七時迄登校三時ヨリ
例ノ真水、山下、河合ノ三人ト共ニ上野ニ赴キ明
次裏街展覧會ヲ一見シルガ何レモ出品ハ美
事ナリ併シ余等ノ俗眼ニテハ精細ナル品ヲ平
トテモ下レ難ク何レカ優リ何レカ劣ルヲ識別ス
ルトサハ能クセザリ幸ニ此テ余等カ画藝ヲ
許山幸彦先生ニ逢ヒルバ先生ニ~~逢~~ヒテ
一々説明ヲ乞ヘリ余等カ優等ト鑑定セシモ
ハテ存外ニ拙キモアルハ余等カ輕々ニ見過
セシモノト急外ニヨキモアリソノ品ヲ平下ス
ルニ何レ迄引見ルヤト云フコトマデ知リ得タ
ルハ余等ノ大ナル幸ナリ四時退キ全
會ヲ去ルコトハ大雨ニキリテア筆リ大ニ~~雨~~最
セリ帰宅後食ヲ終ヘテラテスルト日向
庄作ト云フ若輩ヲスコ以テ造兵學科ノ學生
ニテ中ノ勉強家ナリサレテテテテテ後將
基ヲ固ム一勝一敗ナリカ實ハ彼レ余
ヨリ餘程強シクヨリ又サレテテテテ
午後七時歸ル余ハ落日前櫻井源流ト云
フモノヨク書ヲ得タル好フガ区河ヲ遡リテ
コノ櫻井源流ト云フ男を山形縣西村
山郡各地ノ豪家櫻井源流ノ一子

ナリ年十七ノ片年余ニ行キテ尋問セト大胆
ニ書テ殘テ家ニ用テ走シ仙台ヲ經テ上
京スル途^中山田^{徳兵衛}ト云フモノニ逢ヒ
タルカ家見ト山田^{徳兵衛}ト云フモノニ逢ヒ
支某ヲ訪ハント思フト云フヲ聞キツケソノ朋友ヲ
尋ヌル手ツバキヲ教ヘタリ掘井ハ上京シテソノ朋ヲ
尋ヌルニ行未知ス他ニ便ルベキ知音ナケルハ
大ニ難儀ニ終ニ家見ヲ尋テテ數日待ナルヲ
田^徳ヲ訪ヘリ(家見^徳ハ名刺ヲ与ヘタルニヨリテ
徳^徳ハ家見^徳カ住所ヲ知ツタリ)折フニ家見^徳ニ旅行中ニ
家^徳ニアラス余^徳ヲ居ケルカ^徳ハ家見^徳ニ名ヲ云ヒテ在
宅^徳ニヤト問フ余^徳ト答ヘレ^徳深ク失望ノ体ナリ余
ソノ装ヒノ異形ナル筈ニ各地ト云セムヲ見テ
先^徳ヲ何處ツト問ヘバ^徳ハ^徳カ(ト名乗ル先ヅ
上^徳テ休息シ玉ヘ草鞋ヲ脱キコソ下馬ヲモツテ
アシコ井戸ヘ行キ足ヲ洗ヒ来ヨ子^徳コ^徳ニ教
ヘタリツテ坐定マツテ余^徳ハ^徳カ^徳素姓及ヒ上
京^徳ニハ^徳先^徳家見^徳ニ逢ヒタル事未^徳モ^徳向^徳ニ^徳依
少^徳ニ伏藏セズアリマ^徳い^徳物^徳語^徳リ^徳余^徳ハ^徳彼^徳カ^徳人
相^徳見^徳ル^徳中^徳々^徳伶^徳利^徳ト^徳ナ^徳リ^徳怪^徳シ^徳キ^徳モ^徳ハ^徳執^徳ガ
ヒ^徳ハ^徳勿^徳論^徳世^徳話^徳甲^徳斐^徳モ^徳アリ^徳ソ^徳ナ^徳リ^徳思^徳ヒ^徳シ^徳故^徳彼
シ^徳魁^徳メ^徳先^徳ツ^徳彼^徳シ^徳ヨ^徳ハ^徳毎^徳走^徳シ^徳下^徳宿^徳屋^徳ヲ^徳求
メ^徳種^徳々^徳ノ^徳器^徳具^徳不^徳腐^徳具^徳ノ^徳款^徳ヲ^徳買^徳ヒ^徳ア^徳ツ^徳メ

東京ノ人ハ生馬ノ眼ハヌト云フ必ス油ビシテ
人ノ金ヲラレテハナラス如ク途ヲ人ニ身止テ素姓
ヲ明カスハワロシナクモ教ヘサトシテハ
業ヲ修メタルニ由リ余テ人トナラ業ヲ校
ヘ入校セシメヨリ上野洋草ヲ女ノ所々案
内シ見物セシレハ彼ハ果シテ伶俐敏捷ニテ
旬日ノ内ニ卒業ノ地理人情風俗ヲ曉知ルセリ
彼ノ故郷ニ歸ルニ呼ビテヨサトスレバ
彼ノ然トシテ母ノ念ナキヨリ終ニ父母モ留学
ユルニシテ彼ノ熱心ニ勉強ニテ翌年ノ秋
終ニ業ヲ卒業シテ得タルカ彼ハナホ足
ズトシテ或ハ専門ヲ修メテ企テタルモ古
郷ヨリ催任ニ召シテ烈シク叔父トモノ血ハ来
リテ翌年四月終ニ好々ニツリケリ即チ
去年ノ春ノトニテ今年ハ彼ニ二十オナルベシ
余ガ桜井ノ世世ニシテ羨事ノ様ニ思ヒ養ムル
人多シサレバ窮鳥ノ懐ハハ獵師ヲコトナ
ズ人ノ危急ヲ救フハ人間ノ本心ニテモヨリ当然
ノト云フ可シ桜井ハ余カ恩ヲ忘リス在幸ノトハ
常ニ来テ余ガ起居ヲ訪ヒ故郷ニケリテ後モ
時々消息ス余モ彼ノカ礼シテ知ルテ後ニテ
来テ訪スル毎ニ有益ナル事トモテテ聞セナドセリ
彼ノ角縁ハ異ナルモ味トモノトハヨクモ云ヒタリ

櫻井余ノ訖語及ヒ相互ノ行ヒ孰キ可笑キ
ト面白キヲ澤山アレバコニ尽シ難シ道々ニ語ス
ベキナリ彼ハ中々語ズキニテ彼ハ雄快ナル最
上言葉ニテ滔々ト語シ立テ身ヲ入ツテ來テ夢中ニ
ル程ナリ余モ面白キトニ思ヒ谷地ノ景況地理
彼ハ生ヒ立テノ履歷ヲ根柢ヲ葉ナリテ尙ヒ大
得ハ可モアツタリキ彼ハオアルモノナレモ惜哉
ソオラス(兼達スル)道ヲ得ズ斯カル最
家ニ生シナガラソ財カク修学ノ道ヲ得ザルハ
残念ノ至リナリ。

カク事得ラレバ午後十一時寢ニ就ク
日判決二十点

十月二十九日 (火)

午前十時四十五分起キ七時半登接^{正午後}
完島幹^助 中田切^子を次郎、兩人来ニ一時再
ニ登接佛後、時間ニ教師サツバルト言テスハ
Musique、ハ言テトナリ余ハ向ヒテ余ハ三味
線ヲ好ムト云タル為メ同級生徒ノ非難ヲ受ケル
併シ余ハ甘シク之ヲ受ケ難シ世人ハ三味線ト云ハ
ハ猥褻野鄙ト云フ語必ズ之ニ伴フ如ク感ヲ
起スルト云音聲、微妙ヲ論スル場合ニハカ
ルコト、頓着スベキニアラス例之バ画、巧拙ヲ論
スル中ハソ画ノ上等ト下等トヲ論シ難ク中視ノ
巧妙ヲ論スルハソ雅ノ鄙トヲ同ニ難キカ如
シ況ニ又三味線必ズモ猥褻野鄙ニアラ
ズ三味線ヲ好ムモノ必ズモ懶惰放逸ニアラ
ズサレバ余カ三味線ヲ好ムハ決シテ自慢ニモナ
ラズ事ナガラ亦決シテ非難スベキコトニ非ス然レハ
酒ヲ好シ色ヲ好ムモ亦決シテ非難スベキニ非ザルト
詰問スル人アラレガソハ勿論コトニテ法律道德
徳カエニス長クハ酒色ヲ好ムモ何ゾ妨ゲアランヤ
不賛成ナル人ハ遠慮ナク討テカラレヨ何人ニテモ
相手至スベシ又余カ三味線ヲ好ムハヨクモ此
公然教場ニテ外人ニ向テ口外シタル非難スル
アルモコレモ余ハ受ケ難シ何トハ音楽、僞言ナリ

無端ニ味源モテ先に出ツル尺ケナリ外国人ニ向テ
モ誰ニ向テモ三味線ヲ好ム云フガ無礼ニモテハマジ
又余ハ耻ト思ハザルナリ兎角此雅スル人ハ三味線非
常ニ野鄙者等ノモトニ確信スルヨリ伴フテ生ルニ迷
想ナリ云ハザルヲ得ズ斯クテハ三味線モ大迷惑ナ
リ余ハ只琵琶ヲ琴ハ音ノ変化ナク三味線ハ意化
極ナリ故ニ聞クヲ好ム申スマデニテ何モソ三味
線ヲ引クモトト雖シト關係アルニ非ズ吾人ハ三味
線ト云ハバ酒宴ト云フ語ヲツカヘ藝妓ト云フ語
ヲ思ハシ想像シイテ想像ノ運フルテ自ラ不潔ナル
忘想ヲ起スヨリ他人ニ推シ及ボシテ兎角此雅スル
モノナリ諸君幸ヒ余カハ心情ヲ察シ可ナリ午後
四時半ヨリ晩食後沐浴赴キリ田中苗
左部ヲ訪フ所ニ中山来リ居リシノハ馳走
ニアブカクアリテ先ハ今日ニ限り珍ヨシエ子
上ニ務メ橋梁ノ構造ヲ論議セシカ余ハ大ニ勢
カヲ得テ愉快ナリシハ時半ヨリ晩食後
カレリ追々子々氣催フシテ甚ク難シ大ニ勇
奮シテナキ勉強セシカ終ニ一時時感ニ就
クコノ日判決三十六点ナリ今月モモ一ケキ
尾キルブ油コナク勉強シ玉ヘヨーカヘ
伊東忠左君

十月三十日 (水)

午前十時十分起キ (大朝霞仕り申込
+) 八時登校午後五時帰宅夕飯ノ後サ
レ客課ヲシテ買物兼散歩ニ出カケル
今日ハ朝必ク字算ヲ得ルハ何ナク意気
揚ケテ扇ヲカラシメ終ニ豊国屋へ押入
リ(見ハ例ニ通り若竹亭へ)十銭十五銭拂
テハ間が悪クト乙ナクハ張込ニテ終ニ十
和余銭ヲ費シ酒肉ニ食包リエラガ江戸子
負ケザレハ小生分ニテ家にヨリテ大ニ強ク
ト思ヒカ思ヒテ去ハナク少許ノ字課ヲ研
究シ午後十一時寝ニ就クコノ日判決
四十点嗚呼十月モ明日限リ霜月去ハ
臘月トナルノ中学期試験モ近ヨル国元
カノ松茸ト小鳥モ来ル追々霜モ降ル畢
モ縮ムル油トナリ炭が大分費ヘル牛肉ト
酒ガ何ク必用ニナル衣類モ澤山減
チバナク嗚呼老慮ハ實ニ矢ノ如シテ
アル本年字課鏡ニ是レ日ク

見る毎ニいふ思ハセテ此鏡我
ダナクおさる様也寫シテ

今夜国元ノ郵便来ル平安無用報知ナ
キ

十月三十一日 (水)

午前十時四十五分起キ八時登接
四時半帰宅夕飯ノ後買物兼散
歩ニ出テト企テタリニ例ノ田中、中山
兩人ナリ連テ来ラフス由テ茶果ヲ供シテ
快ヨクテ話ス從テ話ハ舊友連ノ身丈ケ
ノ評論ヨリ田中君カ身体測量ニ移ラツ
中山ハ性活シテ過キ好シテ人ヲ罵ル甚
キ其ハ面ノ之ヲ黒リテ餘ス所ナシ花田君去
歲テ及オシ心常ニ樂マス或ハ花田君
ヲ訪ヒシニ中山モ企シク余ヲ訪ヒ其ニテ彼
也未互ニ諧瀝ヲ吐キテラシムガ中山
ハ花田ニ向ヒ

“ナンダ貴様ハ落カシテ法米斗へ逃げ
込レダロー”

花田ハ急ニ顔色カワツ真面目ニツリカ無
理ニ笑顔ヲ作り

“ソナコトヲ云フト貴様カ公事ヲ起シテ
キ辨護シテナラナイゾ”

ト云フタモハ大ニフサギテ早ク帰リ余モコ
トハ思ハズ冷汗ヲ流セリ後ニ中山ニ向ヒ
君ハ悪口ニ違者ダガイ併シ人ノ氣ニサフル様
ナ悪口ハ云ハヌガヨカロート云ヒシニ中山ハ

一向平氣ナモノデ「ナーニアルナ奴」ト云ハ
タリステソノ性強ク剛心ニ是リ

田中ハ大ニ之ニ畏テテバ謙讓ノ風アリ中山ニ
比スバ一段上著ノ人間ナリト云ハザルヲ得ズ然
レモオラステスレバ中山逆カ田中ニ儼リ峙ラ
シテスハ全クソノ反對ナリコレヲ見テモオト學トハ
并行ニ難キヲ知ルニ是リ[○]松田松蔭先生
電テ品川彌次郎ヲ諭シテ汝オ餘クワツテ
學ビテズト云ヘツツ若シ品川ニシテ學力備
ハリ身軀健康ナラバ已ニ大臣ノ位置ニモ
居ラレベキナリ

午後九時兩人歸ル家兄ハ行徳ト云
フ親友ノ許ヘ出テ行ケルガ多分今夜ハ
归宿スレバ已ニ昨夜モ外泊シタルナリ家
兄ハ何ヲ苦シテ斯ク屢々外泊スルカ否下、
冠瓜田ノ輩化ト云フコトヲ知ラズニテ吾ソレシ
キノコト知ラヌ人間ニハアラス[○]必ス[○]此ノ
酉已ニ及バヌナリ行徳ト云フ男ハ余モ又
トテテ出シタルアリ格別ノ人ニナケレバ中々
世オアル男ナリ併ニ學術ニテハ寧ロ消極
的ノ人間ナリ家兄ガ行ハレ交ハレ極メテ
深キハ余ニテラス多クノ学友等ガ密カニ
上ニ出テ行ナリ

余ハ熱心ニ學問ヲ研究シタルカ得ル所
抱テテサナレ毎夜ナガラ余ハ勉強スル割
合ニハ得ル所ヲ抱テテサナレ余ハ常ニ怒リ
痛歎スルニモカワラス世人往々余ヲ目シテ
學オアルモノナリト云フ甚シキニ至テハ余ヲ平
テ一ラ聞テニラ知ルノオアリト云フコレ皆余
ヲ知ラザルモノナリ余ハ一ラ聞テ辛クジテ
一ラ知ルモノナリ然レモ余ハソ一ラ活用
シテニ乃至三ノ働カヲキラナサレハルノオアリ
ト自信セリ自惚ノ極ナルモ實テ榮ソ一ダト
思フガマ、記ス

午後十一時三十分鐘ニ就クノ日判決
三十八点明日ヨリハ十一月ナリ月ト共ニハ
モ改メテ進ミ来月ハ天晴シ女子果シ得ル
心ニ誓ヒラナセリコノ誓ハ誰モスルコトナガラ
亦誰モ守リ得ルモノナレ余モ凡夫ノ悲シ
サハ往々誓文ヲ書ケドモ一途モ守リ通セシ
コトナレ伊丹シ大學々生トナリテ已リ好ク書
イ修ムル以上ハ通例ノ書生トハハ異ナリ来月
ヨリハ必ス誓ヲ破ラザラズラコトニ誓フ鳴
呼汝十月ヨ汝十月ハ毎年来レ明治ニ十二
年ノ十月ハ再ビ来ツズ汝十月今去テ何カ
カ行カントスル。

二. Correspondence.
During October.

Passive	Active
1. From Parents	1. To Parents
2. From Parents	2. To Parents
3. From { Bancho school Club,	3. To Parents
4. From G. Sakurai	4. To G. Sakurai
	5. To { Bancho school Club

主要十費之 (十月中)

1. 飲食費 78.0	17. 金費 50.0
2. 飲食費 61.0	? 寫真 63.0
3. 飲食費 21.0	19. 飲食費 27.0
4. 飲食費 14.0	25. 飲食費 20.0
6. 牛肉代 6.5	30. 飲食費 18.0
8. 飲食費 18.0	30. 帳面代 23.0
10. 飲食費 25.0	31. 茶 10.0
11. 靴下代 35.0	31 靴下代 9.0
? 帳面代 16.0	車代 36.0
13. 飲食費 80.0	折掛, 郵費, 郵便 42.0
14. ビール 18.0	紙幣, 波場, 靴. 71.4也
15. 飲食費 10.0	
16. 飲食費 25.0	
	697.5 + X. ?
	憶算金七円十銭

月(按 若ルレ内市 總)十 若訪来

Active	Passive
2. 山岡マシ 1. 西村三 1. 内村三 1. 山岡三 1. 山岡三 1. 長見三 1. 橋本三 1. 石塚三 1. 御供身陽	1. 那珂知 1. 今中 1. 中山 1. 中山 1. 中山 1. 中山 1. 中山 1. 中山 1. 中山 1. 中山
1. 御供身陽 1. 長見三 1. 橋本三 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽
1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽	1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽 1. 御供身陽

四等朋友

梅原諒一
松本重孝
内田鐵五郎
各藤土郎
一軒正藏
樹井十次郎
土屋達太郎
春日井信六
秋山源三
黒金義載
江村忠助
南谷孝吉
海見倫六
喜多桂郎
大倉長子
岡本高砂
岡本桂郎

五等朋友

櫻田重二郎
櫻川重高郎
村山揆一
決下竹松
幸嶺善成
佐多信吉
厚雄定郎
河邑三三

四等朋友

下條鎮二郎
下條虎次郎
千段賢郎
成田欣助
宇佐冬子
力川三郎
吉原政助
霧田松藏
木下正伸
星野精一
内田表夫
柳谷卯三
今巳吉吉
力出周郎
山崎榮亮
之針三三
花柳清夫

五等朋友

井
三

一等親友

岡村龍茂
内村蓮次郎
御供昇陽
小島南壽郎
長各部渡郎
宮島幹之助
楠川良策
山田鉄造
新傷文作

二等親友

田中苗太郎
中山炎次郎
木堂恒俊郎
山口弘一
大内刃之助
三宅速
山岡茂松
江原銅
長島翁雄
山口小太郎

三等朋友

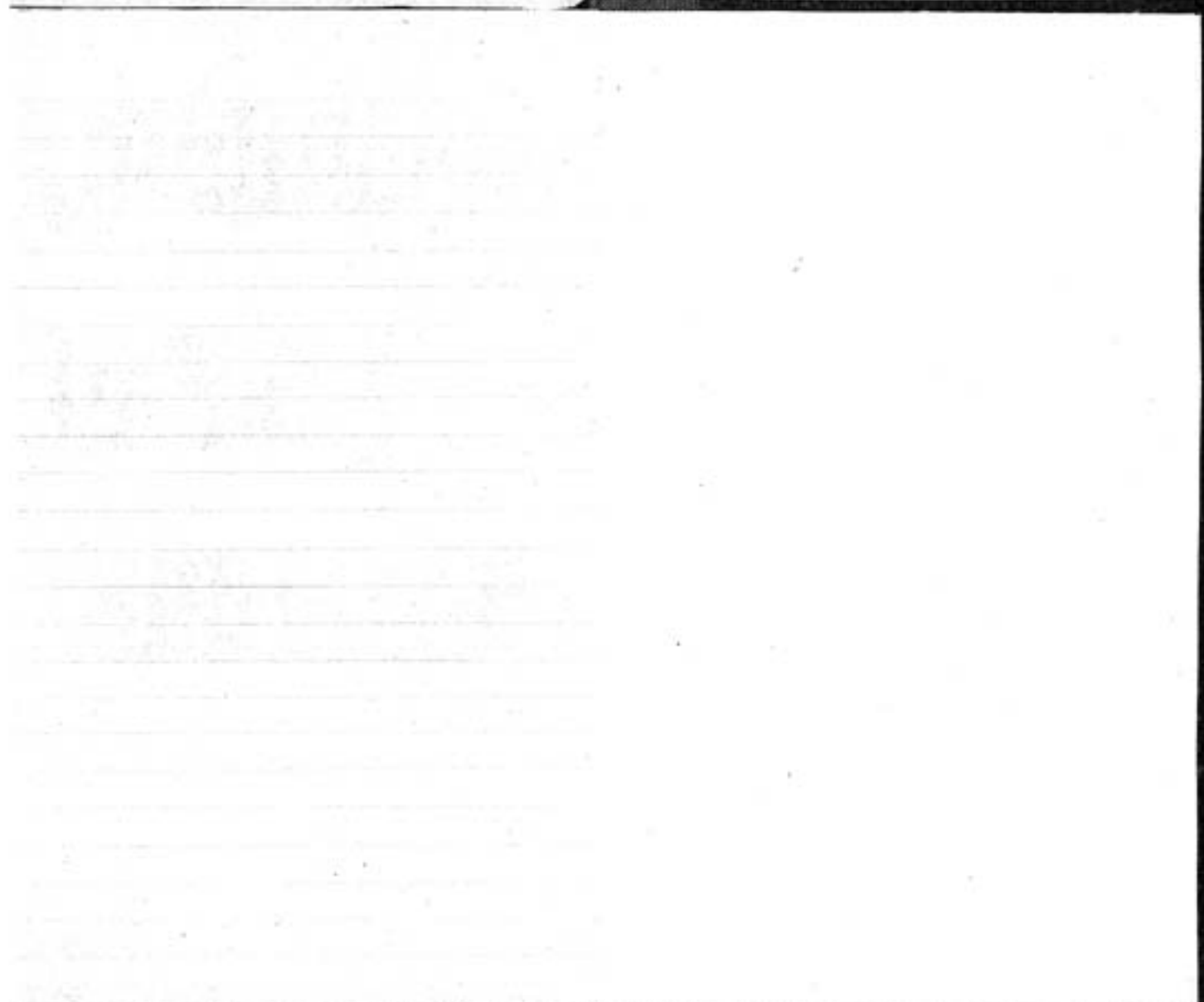
眞永英丈
河合義次
山下啓俊郎
小宅千次郎
日向庄作
今泉嘉郎
米田安平
榎浦重藏
服部漸
名井九次郎
作向綱老郎
知連陽郎
近藤會多
鮫島義光
野田六次
山口我勝
其他三向叔

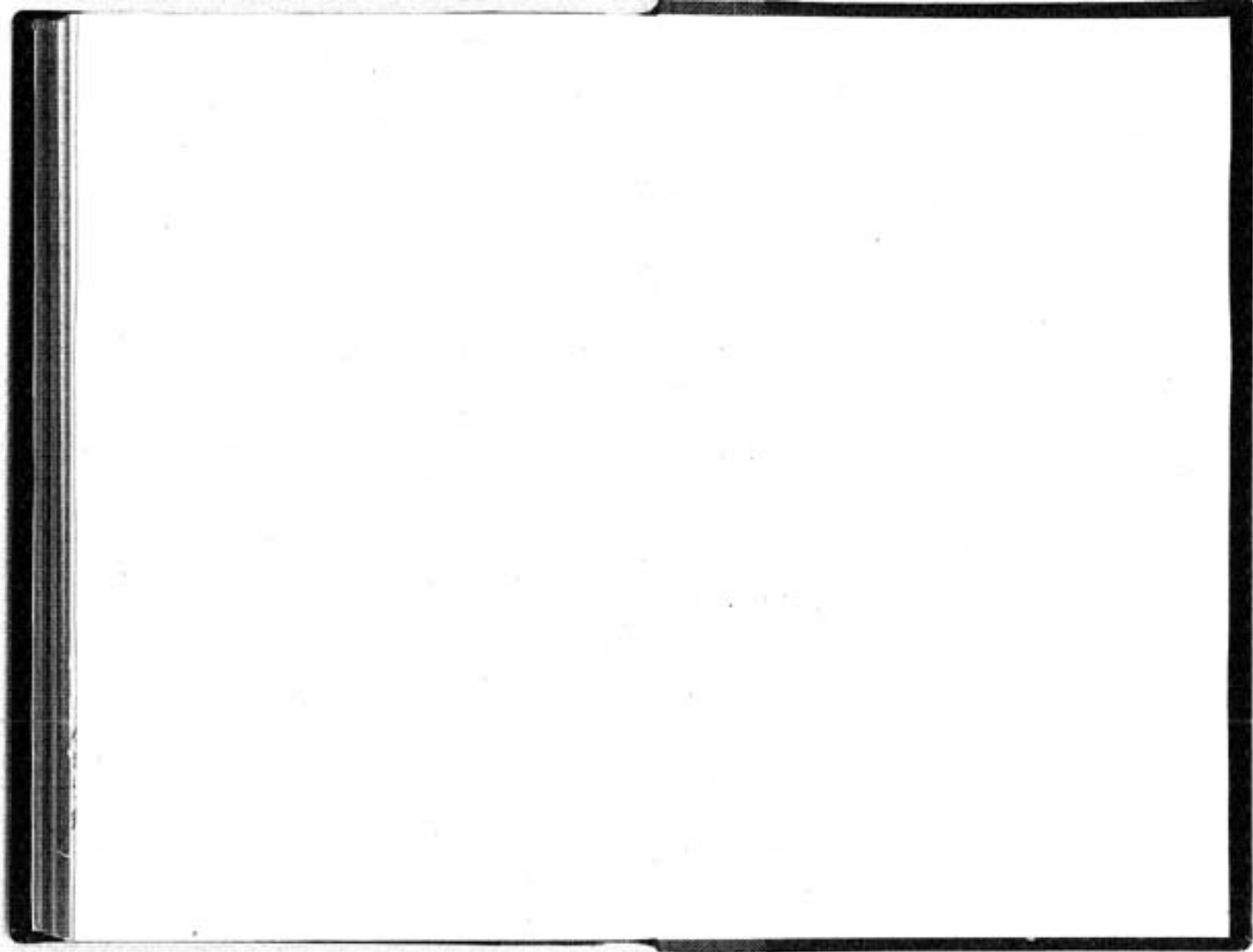
四等朋友

中條精二郎
那珂勉尔
池田慎平
血服守之助
関口郁朗
島田友香
陳相遠
里口太郎
岡土堂時
林栄十郎
古川市次郎
中原定衛

准友

石坂虎次郎
櫻井源光
北村吉吉
芳賀常吉
土田三子
武深輝作
加藤俊夫
加藤忠雄





1

①

1977年

M. 22. 9. 17
~ 10. 31

付: 10月中の費
訪問・車賃
友人の等級費

うきよのたひ